

科目名	教科教育法家庭Ⅰ	対象 単位数 必選	家政学部 生活科学科社会福祉専攻 2年 2単位 必修/家政学部 生活科学科建築デザイン専攻 2年 2単位 必修
担当教員	瀬谷 真理子		
開講期	前期		
授業概要	<p>[授業の目的・ねらい] ☑ 中学校、高等学校の家庭科教諭免許を取得するために、家庭科教育の変遷をふまえ、今日の学校教育における家庭科の意義と現状を理解する。また、学習指導要領及び同解説書、教科書をもとに、体系的に家庭科教育を学ぶ。中学校における教科指導として、学習指導要領、教科の目標、内容、指導方法について学習し、年間指導計画、学習指導案の作成法を学ぶとともに、実践力をつけるために模擬授業をととして、生活が直面する諸問題を解決する力を養うための家庭科教育の重要性と役割を考える。主体的な学びとしてアクティブラーニング手法により学習指導案の作成と模擬授業の実践を行う。☑</p> <p>[授業全体の内容の概要] 家庭科の教育目標、学習内容や家庭科教育の変遷をふまえ、学習指導要領を把握したうえで、その系統性について理解を深める。また、学習内容の探究に努め、学修指導案の作成を通して家庭科教育について考え、模擬授業の実践につなげていく。</p> <p>[実務経歴] 福島県立高等学校校長、専門教科「家庭」、一級衣料管理士資格取得。教育庁社会教育課課長、社会教育主事資格取得。 位置づけ・水準 TP9401 ☑</p>		
達成目標	<p>①家庭科教育の変遷を理解するとともに、小学校・中学校家庭科の教育目標および内容を総合的な視点で捉え、理解することができたか☑ ②中学校家庭科学習指導要領から、家庭科教育の意義や内容について理解することができたか☑ ③家庭科の学習指導案（中学校）を作成し、作成した指導案の授業構成（流れ）についてプレゼンテーションができたか。☑ ④より良い授業づくりのために、積極的に取り組めたか☑</p> <p>単位認定の最低基準は、上記①～④の総合的な評価が達成度7割以上であること。 ディプロマ・ポリシーとの関係：知識・問題解決力、総合的な学習体験、創造的思考力</p>		
受講資格	家庭科教員免許状取得を目指す上記の学生。本科目の単位修得が、「教科教育法家庭Ⅱ」の履修条件となる。	成績評価 方法	①平常点（授業への取り組み）10点% ②課題や提出物（レポート、ノートなど）20% ③学習指導案の作成とプレゼンテーション20%☑④確認テスト 50% ①から④の総合評価とし、60%以上により合格となる。
教科書	中学校学習指導要領解説・家庭編（文部科学省）東京書籍発行☑ 中学校教科書「技術・家庭 家庭分野」東京書籍 その他、授業時に配布するプリント ☑		
参考書	高等学校教科書「家庭基礎」、高等学校学習指導要領解説家庭編（文部科学省）教育図書発行		
学生への要望	教科教育法家庭Ⅰは、「教科教育法家庭Ⅱ」への土台となり、中学校、高等学校の家庭科教諭免許を取得に繋がる重要な科目であることから、受け身の姿勢ではなく、主体的、積極的な姿勢で授業に臨んで欲しい。☑		
オフィスタイム	被服学研究室 月曜日Ⅱ、Ⅲ限目		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	ガイダンス、家庭科教育の変遷1	家庭科教育の変遷を学ぶとともに、家庭科教育の目的などについて理解する。また、家庭科教員を目指すことの意味を考える。☑ラバスの確認により履修内容を把握する。	講義内容を整理し、ノートにまとめる。☑	60
2	家庭科教育の変遷2、家庭科教育の独自性と目的	家庭科教育の変遷を抑えながら、家庭科で何を教えるか、学習指導要領とは何かについて学ぶ。	講義内容を整理し、ノートやワークシートにまとめる。授業内容を振り返り、課題レポートを実施する。	60
3	家庭科学習内容1-家庭科の学習内容（小学校1）-	小学校学習指導要領の確認、小学校家庭科の教科書を用いて、小学5・6年生がどのようなことを学ぶのか確認し、年間指導計画について学ぶ。	講義内容を整理し、ノートやワークシートにまとめる。授業内容を振り返り、課題レポートを実施する。	60
4	家庭科学習内容2-家庭科の学習内容（小学校2）-	小学校学習指導要領の確認、小学校家庭科の教科書を用いて、小学5・6年生がどのようなことを学ぶのか確認し、指導内容について学ぶ。	講義内容を整理し、ノートやワークシートにまとめる。授業内容を振り返り、課題レポートを実施する。	60
5	家庭科学習内容3-家庭科の学習内容（中学校）	中学校学習指導要領の確認と中学校家庭科の教科書を用いて、3年間で学ぶ内容をしっかりと把握し、年間指導計画について学ぶ。	講義内容を整理し、ノートやワークシートにまとめる。授業内容を振り返り、課題レポートを実施する。	60
6	中学校家庭科の学習内容の探究1	家族・家庭生活分野の探究。中学校学習指導要領を読み解き、指導内容の確認と指導上の留意点を学ぶ。	講義内容を整理し、ノートやワークシートにまとめる。授業内容を振り返り、課題レポートを実施する。	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
7	中学校家庭科の学習内容の探究 2	保育・子どもの成長と発達分野の探究。中学校学習指導要領を読み解き、指導内容の確認と指導上の留意点を学ぶ。	講義内容を整理し、ノートやワークシートにまとめる。授業内容を振り返り、課題レポートを実施する。	60
8	中学校家庭科の学習内容の探究 3	食生活分野の探究。中学校学習指導要領を読み解き、指導内容の確認と指導上の留意点を学ぶ。	講義内容を整理し、ノートやワークシートにまとめる。授業内容を振り返り、課題レポートを実施する。	60
9	中学校家庭科の学習内容の探究 4	衣生活生活分野の探究。中学校学習指導要領を読み解き、指導内容の確認と指導上の留意点を学ぶ。	講義内容を整理し、ノートやワークシートにまとめる。授業内容を振り返り、課題レポートを実施する。	60
10	中学校家庭科の学習内容の探究 5	住生活・消費・環境分野の探究。中学校学習指導要領を読み解き、指導内容の確認と指導上の留意点を学ぶ。	講義内容を整理し、ノートやワークシートにまとめる。授業内容を振り返り、課題レポートを実施する。	60
11	授業づくりの基礎 1	授業のストーリー作りについて学ぶ、学習指導案の書き方について基本を学び、作成する。	講義内容を整理し、ノートやワークシートにまとめる。授業内容を振り返り、学習指導案を作成する。	60
12	授業づくりの基礎 2	授業のストーリー作りについて学ぶ、学習指導案の書き方について基本を学び、作成する。	講義内容を整理し、ノートやワークシートにまとめる。授業内容を振り返り、学習指導案を作成する。	60
13	学習指導案をプレゼンテーションする①	作成した学習指導案をプレゼンテーションして、より良い授業の構築に向けてディスカッションする。	自己評価と相互評価を行い、授業の分析を行いワークシートにまとめる。	60
14	学習指導案をプレゼンテーションする②	作成した学習指導案をプレゼンテーションして、より良い授業の構築に向けてディスカッションする。	自己評価と相互評価を行い、授業の分析を行いワークシートにまとめる。	60
15	授業の総括、振り返り、確認テスト	授業の総括を行い、自己評価と相互評価を行う。確認テストの実施により、学んだ知識の定着につなげる。	確認テストにより、学んだ知識を整理する。	60

科目名	教科教育法家庭Ⅱ	対象 単位数 必選	家政学部 生活科学科社会福祉専攻 2年 2単位 必修/家政学部 生活科学科建築デザイン専攻 2年 2単位 必修
担当教員	瀬谷 真理子		
開講期	後期		
授業概要	<p>[授業の目的・ねらい] ☑</p> <p>中学校、高等学校の家庭科教諭免許を取得するために、「教科教育法家庭Ⅰ」での学びをふまえ、今日の学校教育における家庭科の意義と現状を理解する。また、学習指導要領及び同解説書、教科書をもとに、家庭科教育の在り方を学ぶ。高等学校における教科指導として、学習指導要領、教科の目標、内容、指導方法について学習し、年間指導計画、学習指導案の作成法を学ぶとともに、実践力をつけるために模擬授業をととして、学習領域ごとの課題を把握し、家庭科教育の重要性と役割を考える。アクティブラーニングとしても主体的な学びによる実践を展開する。☑に、教員養成に向け、高等学校で家庭科教育に携わってきた経験を生かした指導を行い、ワークシート及びレポートを添削・返却しコメント等によるフィードバックを行う。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>高等学校家庭科の教育目標、学習内容をふまえ、学習指導要領を把握したうえで、その指導内容について領域ごとに理解を深める。また、学習指導案の作成を通してプレゼンテーションや模擬授業を行い、実践力を高めるとともに、家庭科教育の在り方について考える。</p> <p>[実務経歴] 福島県立高等学校校長、専門教科「家庭」、一級衣料管理士資格取得。教育庁社会教育課課長、社会教育主事資格取得。 位置づけ・水準 TP9402 ☑</p>		
達成目標	<p>①高等学校家庭科の教育目標および内容を総合的な視点で捉え、理解することができたか☑</p> <p>②高等学校家庭科学習指導要領から、家庭科教育の意義が理解できたか。☑</p> <p>③単元指導計画及び、学習指導案を作成することができ、学習指導案に沿って、模擬授業を実施することができたか☑</p> <p>④より良い授業づくりのために、探究する姿勢で教材研究に取り組めたか。</p> <p>単位認定の最低基準は、上記①～④の総合的な評価が達成度7割以上であること。 ディプロマ・ポリシーとの関係：知識・問題解決力、総合的な学習体験、創造的思考力</p>		
受講資格	家庭科教員免許状取得を目指す上記の学生対象。「教科教育法家庭Ⅰ」を履修していることが望ましい。本科目の単位修得が、「教科教育法家庭Ⅲ」の履修条件となる。	成績評価 方法	<p>①平常点（授業への取り組み）10点%</p> <p>②課題や提出物（レポート、ノートなど）20% ③学習指導案の作成とプレゼンテーション20%☑④確認テスト 50%</p> <p>①から④の総合評価とし、60%以上により合格となる。</p>
教科書	高等学校学習指導要領解説・家庭編 文部科学省 高等学校教科書「家庭基礎」自作プリント		
参考書	高等学校教科書「家庭基礎」東京書籍		
学生への要望	教科教育法家庭Ⅱは、「教科教育法家庭Ⅲ」への土台となり、中学校、高等学校の家庭科教諭免許を取得に繋がる重要な科目であることから、受け身の姿勢ではなく、主体的、積極的な姿勢で授業に臨んで欲しい。☑		
オフィスタイム	被服学研究室 月曜日Ⅱ、Ⅲ限目		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	ガイダンス～家庭科教育について～	教科教育法家庭Ⅰを振り返りながら、家庭科教育における目的について確認する。また、家庭科教員を目指すことの意味を考える。	講義内容を整理し、ノートにまとめる。課題レポートを作成する。	60
2	高等学校学習指導要領について	高等学校における学習指導要領の改訂のポイントを理解し、中学校との関連性を把握して、高等学校における家庭科教育の在り方を考える。	講義内容を整理し、ワークシートにまとめる。授業内容を振り返り課題レポートを作成する。採用試験過去問題についても実施する。	60
3	高等学校家庭科の年間指導計画について	高等学校学習指導要領を踏まえた家庭科の年間指導計画について、実際のものを確認しながら学ぶ。	講義内容を整理し、ワークシートにまとめる。授業内容を振り返り課題レポートを作成する。教員採用試験過去問題についても実施する。	60
4	高等学校学習内容の探究1	家族・家庭生活分野の探究。高等学校学習指導要領を読み解き、指導内容の確認と指導上の留意点を学ぶ。実際に全員が教科書（家庭基礎）の説明も部分的に実施する。また、教員採用試験において重視される部分も抑える。	講義内容を整理し、ワークシートにまとめる。授業内容を振り返り課題レポートを作成する。教員採用試験過去問題についても実施する。	60
5	高等学校学習内容の探究2	保育・子どもの成長と発達分野の探究。高等学校学習指導要領を読み解き、指導内容の確認と指導上の留意点を学ぶ。実際に全員が教科書（家庭基礎）の説明も部分的に実施する。また、教員採用試験において重視される部分も抑える。	講義内容を整理し、ワークシートにまとめる。授業内容を振り返り課題レポートを作成する。教員採用試験過去問題についても実施する。	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
6	高等学校学習内容の探究3	保育・子どもの成長と発達分野の探究。高等学校学習指導要領を読み解き、指導内容の確認と指導上の留意点を学ぶ。実際に全員が教科書（家庭基礎）の説明も部分的に実施する。また、教員採用試験において重視される部分も抑える。	講義内容を整理し、ワークシートにまとめる。授業内容を振り返り課題レポートを作成する。教員採用試験過去問題についても実施する。	60
7	高等学校学習内容の探究4	食生活分野の探究。高等学校学習指導要領を読み解き、指導内容の確認と指導上の留意点を学ぶ。実際に全員が教科書（家庭基礎）の説明も部分的に実施する。また、教員採用試験において重視される部分も抑える。	講義内容を整理し、ワークシートにまとめる。授業内容を振り返り課題レポートを作成する。教員採用試験過去問題についても実施する。	60
8	高等学校学習内容の探究5	衣生活分野の探究。高等学校学習指導要領を読み解き、指導内容の確認と指導上の留意点を学ぶ。実際に全員が教科書（家庭基礎）の説明も部分的に実施する。また、教員採用試験において重視される部分も抑える。	講義内容を整理し、ワークシートにまとめる。授業内容を振り返り課題レポートを作成する。教員採用試験過去問題についても実施する。	60
9	高等学校学習内容の探究6	住生活分野の探究。高等学校学習指導要領を読み解き、指導内容の確認と指導上の留意点を学ぶ。実際に全員が教科書（家庭基礎）の説明も部分的に実施する。また、教員採用試験において重視される部分も抑える。	講義内容を整理し、ワークシートにまとめる。授業内容を振り返り課題レポートを作成する。教員採用試験過去問題についても実施する。	60
10	単元設定と授業評価	単元設定のポイントと授業評価の基本について、要点を把握して学習指導案の作成につなげる。	講義内容を整理し、ワークシートにまとめる。授業内容を振り返り課題レポートを作成する。教材研究についても計画し、実施する。	60
11	授業のストーリーづくりと学習指導案の作成	学習指導案の作成に向けて、作成のポイントを学ぶとともに授業のストーリー作りを行い、教材研究につなげる。	講義内容を整理し、ワークシートにまとめる。授業内容を振り返り課題レポートを作成するとともに学習指導案を作成する。教材研究についても計画し、実施する。	60
12	模擬授業の準備（学習指導案の作成と教材研究）	学習指導案を作成し、模擬授業を想定し、教材研究を進めるとともに学習指導案を完成して提出できるようにする。	講義内容を整理し、ワークシートにまとめる。授業内容を振り返り、学習指導案を完成させて提出する。教材研究についても計画し、実施する。	60
13	模擬授業 1	作成した学習指導案に沿って模擬授業を実施する。自己評価と相互評価を行う。	学習指導案を相互に検討したり自己評価部分での改善点を確認する。自己評価票の作成と相互評価票の作成、提出。	60
14	模擬授業 2	作成した学習指導案に沿って模擬授業を実施する。自己評価と相互評価を行う。	学習指導案を相互に検討したり自己評価部分での改善点を確認する。自己評価票の作成と相互評価票の作成、提出。	60
15	授業のまとめと振り返り、確認テスト	講座全体を振り返り、確認していくとともに、確認テストにより学びの定着を図る。	確認テストの反省と評価	60

科目名	教科教育法家庭Ⅲ	対象 単位数 必選	家政学部 生活科学科生活総合コース 3年 2単位 選択/家政学部 生活科学科福祉コース 3年 2単位 選択/家政学部 生活科学科建築デザインコース 3年 2単位 選択
担当教員	瀬谷 真理子		
開講期	前期		
授業概要	<p>[授業の目的・ねらい] ☑</p> <p>中学校、高等学校の家庭科教諭免許を取得するために、「教科教育法家庭Ⅰ～Ⅱ」での学びをふまえ、今日の学校教育における家庭科の意義と現状を理解する。また、学習指導要領及び同解説書、教科書をもとに、新たな時代に求められる家庭科教育の資質・能力とSDGsについても取り入れ、これからの家庭科教育の在り方を学ぶ。教科指導として、探究的で深い学びをつくるカリキュラム・デザインを考えながらの学習指導案の作成法を学ぶ。また、アクティブラーニング手法を取り入れ、実践力をつけるために模擬授業をととして、現代の生活課題を反映させた指導内容を展開させるとともに、家庭科教育の重要性と役割を考える。☑に、教員養成に向け、高等学校で家庭科教育に携わってきた経験を生かした指導を行い、ワークシート及びレポートを添削・返却しコメント等によるフィードバックを行う。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>家庭科の教育目標、学習内容をふまえ、学習指導要領を把握したうえで、その指導内容について領域ごとに理解を深める。また、指導案の作成を通して家庭科教育について考える。</p> <p>[実務経歴] 福島県立高等学校校長、専門教科「家庭」、一級衣料管理士資格取得。教育庁社会教育課課長、社会教育主事資格取得。 位置づけ・水準 TP9403 ☑</p>		
達成目標	<p>①高等学校家庭科の単元指導計画、学習指導案の作成はできたか☑</p> <p>②学習指導案に沿って、模擬授業を実施できたか☑</p> <p>③現代の生活課題を捉え、学習領域ごとに反映させ、プレゼンテーションすることができたか</p> <p>④より良い授業づくりのために、積極的に取り組めたか</p> <p>単位認定の最低基準は、上記①～④の総合的な評価が達成度7割以上であること。 ディプロマ・ポリシーとの関係：知識・問題解決力、総合的な学習体験、創造的思考力</p>		
受講資格	家庭科教員免許取得を希望する上記対象学生で「教科教育法家庭Ⅰ・Ⅱ」を受講していることが望ましい。本科目の単位修得が、「教科教育法家庭Ⅳ」の履修条件となる。	成績評価 方法	①課題レポート・学習指導案・模擬授業☑0% ②確認テスト 50% ①と②の総合評価により60%以上で合格とする。
教科書	高等学校学習指導要領解説・家庭編（文部科学省）教育図書発行☑高等学校家庭科図説資料 第一学習社 高等学校教科書「家庭総合」東京書籍、その他、授業時に配布するプリント ☑		
参考書	高等学校教科書「家庭基礎」実教出版、「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 文部科学省		
学生への要望	教科教育法家庭Ⅲは、中学校、高等学校の家庭科教諭免許を取得に繋がる重要な科目であることから、受け身の姿勢ではなく、主体的、積極的な姿勢で授業に臨んで欲しい。☑		
オフィスタイム	被服学研究室 月曜日Ⅱ、Ⅲ限目		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	ガイダンス ～家庭科教育を考える～	これまで学修してきたⅠ～Ⅱを振り返り、家庭科教育における授業の目的と授業実践について、教育実習を視野に考える。また、家庭科教員を目指すことの意味を考える。	講義内容を整理し、ノートにまとめる。課題レポートを作成する。	60
2	家庭科における評価	評価方法の種類と特徴について学び、家庭科における評価について理解を深める。新たな評価方法と家庭科について、学びを深め実践できるようにする。	講義内容を整理し、ノートにまとめる。授業内容を振り返り課題レポートを作成する。	60
3	単元指導計画の作成と評価規準	単元指導計画の作成の仕方について学び、家庭科における評価規準とはどのように考えていくものなのか実践をととして学ぶ。	講義内容を整理し、ノートにまとめる。単元指導計画を作成する。	60
4	単元設定と学習指導案の作成	探究的で深い学びの授業を想定し、単元設定を行うとともに、授業評価の視点も取り入れ、これからの家庭科をかんげる授業の構築をめざした学習指導案の作成に向けて、授業のストーリー作りを行い、教材研究につなげる。	講義内容を整理し、ワークシートにまとめる。授業内容を振り返り課題レポートを作成するとともに学習指導案を作成する。教材研究についても計画し、実施する。	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
5	板書計画と授業研究～わかる授業をめざして～	教材研究についてその方法を理解し、よりよい授業のための教材についての要件を把握する。板書の機能と実際について理解を深め実践できるようにする。	講義内容を整理し、ノートにまとめる。授業内容を振り返り課題レポートを作成する。	60
6	模擬授業の準備（学習指導案の作成と教材研究）	学習指導案を作成し、模擬授業を想定し、教材研究を進めるとともに学習指導案を完成して提出できるようにする。	講義内容を整理し、ワークシートにまとめる。授業内容を振り返り、学習指導案を完成させて提出する。教材研究についても計画し、実施する。	60
7	学習内容の探究 模擬授業1	作成した学習指導案に沿って模擬授業を実施する。自己評価と相互評価を行う。学習内容の要点を確認し、教員採用試験対策としてのポイントも整理する。	学習指導案を相互に検討したり自己評価部分での改善点を確認する。自己評価票の作成と相互評価票の作成、提出。	60
8	学習内容の探究 模擬授業2	作成した学習指導案に沿って模擬授業を実施する。自己評価と相互評価を行う。学習内容の要点を確認し、教員採用試験対策としてのポイントも整理する。	学習指導案を相互に検討したり自己評価部分での改善点を確認する。自己評価票の作成と相互評価票の作成、提出。	60
9	学習内容の探究 模擬授業3	作成した学習指導案に沿って模擬授業を実施する。自己評価と相互評価を行う。学習内容の要点を確認し、教員採用試験対策としてのポイントも整理する。	学習指導案を相互に検討したり自己評価部分での改善点を確認する。自己評価票の作成と相互評価票の作成、提出。	60
10	学習内容の探究 模擬授業4	作成した学習指導案に沿って模擬授業を実施する。自己評価と相互評価を行う。学習内容の要点を確認し、教員採用試験対策としてのポイントも整理する。	学習指導案を相互に検討したり自己評価部分での改善点を確認する。自己評価票の作成と相互評価票の作成、提出。	60
11	学習内容の探究 模擬授業5	作成した学習指導案に沿って模擬授業を実施する。自己評価と相互評価を行う。学習内容の要点を確認し、教員採用試験対策としてのポイントも整理する。	学習指導案を相互に検討したり自己評価部分での改善点を確認する。自己評価票の作成と相互評価票の作成、提出。	60
12	現代の生活課題を捉える①	高等学校におけるホームプロジェクトと学校家庭クラブについて学び、現代の生活課題への考え方、教材研究の在り方を模索する。	講義内容を整理し、授業内容を振り返り課題レポートを作成する。	60
13	現代の生活課題を捉える②	中学校における「生活の課題と実践」について、授業研究を行う。中学生に生活課題を捉えさせるためのポイントを考えさせ、ワークシート作成を行う。作成したワークシートのプレゼンテーションを行い、互いに相互評価を含めたディスカッションを行う。	講義内容を整理し、授業内容を振り返り課題レポートを作成する。	60
14	探究的で深い学びをつくるカリキュラム・デザインとSDGs～その1～	家庭科教育におけるSDGsの視点について理解するとともに探究的な学びとは何か、問題解決型の学習について、カリキュラム・デザインすることを実践して学ぶ。	講義内容を整理し、ワークシートにまとめる。授業内容を振り返り課題レポートを作成する。過去問題についても実施する。	60
15	授業のまとめと振り返り、確認テスト	講座全体を振り返り、確認していくとともに、確認テストにより学びの定着を図る。	確認テストの反省と評価	60

科目名	教科教育法家庭Ⅳ	対象 単位数 必選	家政学部 生活科学科生活総合コース 3年 2単位 選択/家政学部 生活科学科福祉コース 3年 2単位 選択/家政学部 生活科学科建築デザインコース 3年 2単位 選択
担当教員	瀬谷 真理子		
開講期	前期		
授業概要	<p>[授業の目的・ねらい] ☑</p> <p>中学校、高等学校の家庭科教諭免許を取得するために、これまで学修してきた「教科教育法家庭Ⅰ～Ⅲ」を踏まえて、今日の学校教育における家庭科の意義と現状を理解する。また、学習指導要領及び同解説書、教科書をもとに、新たな時代に求められる家庭科教育の資質・能力について考えを深め、教育実習を前提に授業研究や教材研究、学習指導案の作成について実践力を高めていく。教科指導として、アクティブ・ラーニング手法を踏まえ、探究的で深い学びをつくるカリキュラム・デザインを考えながら模擬授業をとおして、現代の生活課題を把握し、家庭科教育の重要性と役割を考える。☑に、教員養成に向け、高等学校で家庭科教育に携わってきた経験を生かした指導を行い、ワークシート及びレポートを添削・返却しコメント等によるフィードバックを行う。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>家庭科の教育目標、学習内容をふまえ、学習指導要領を把握したうえで、教育実習を視野にその教科指導について領域ごとに理解を深める。また、模擬授業を通して実践力を高め、評価の在り方についても実践を通して学び、今後の家庭科教育について考える。</p> <p>[実務経歴] 福島県立高等学校校長、専門教科「家庭」、一級衣料管理士資格取得。教育庁社会教育課課長、社会教育主事資格取得。 位置づけ・水準 TP9404 ☑</p>		
達成目標	<p>①単元指導計画、学習指導案の作成はできたか☑</p> <p>②学習指導案に沿って、模擬授業を実施できたか☑</p> <p>③評価の仕方を研究し、教材の開発と研究に努め、プレゼンテーションすることができたか</p> <p>④教育実習を視野によりよい授業が展開できるよう積極的に取り組めたか</p> <p>単位認定の最低基準は、上記①～④の総合的な評価が達成度7割以上であること。 ディプロマ・ポリシーとの関係：知識・問題解決力、総合的な学習体験、創造的思考力</p>		
受講資格	家庭科教員免許取得を希望する上記の学生で「教科教育法家庭Ⅰ～Ⅲ」を受講していることが望ましい。	成績評価 方法	①課題レポート・学習指導案・模擬授業☑50% ②確認テスト 50% ①と②の総合評価で60%以上で合格とする。
教科書	高等学校学習指導要領解説・家庭編（文部科学省）教育図書発行☑高等学校教科書「家庭総合」実教出版 高等学校家庭科図説資料「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 文部科学省 その他、授業時に配布するプリント ☑		
参考書	高等学校教科書「家庭基礎」実教出版、中学校教科書「技術・家庭 家庭分野」開隆堂		
学生への要望	教科教育法家庭Ⅳは、中学校、高等学校の家庭科教諭免許を取得に繋がる重要な科目であることから、受け身の姿勢ではなく、主体的、積極的な姿勢で授業に臨んで欲しい。☑		
オフィスタイム	被服学研究室 月曜日Ⅱ、Ⅲ限目		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	ガイダンス ～家庭科教育を考える～	これまで学修してきたⅠ～Ⅲを振り返り、家庭科教育における授業の目的と授業実践について、教育実習を視野に考える。また、家庭科教員を目指すことの意味を考える。	講義内容を整理し、ノートにまとめる。課題レポートを作成する。	60
2	家庭科における単元指導計画と評価1	単元指導計画について学び、家庭科における評価について理解を深める。新たな評価方法と家庭科について、学びを深め実践できるようにする。	講義内容を整理し、ノートにまとめる。授業内容を振り返り課題レポートを作成する。	60
3	家庭科における単元指導計画と評価2	単元指導計画について学び、家庭科における評価について理解を深める。新たな評価方法と家庭科について、学びを深め実践できるようにする。	講義内容を整理し、ノートにまとめる。授業内容を振り返り課題レポートを作成する。	60
4	板書計画と授業研究～わかる授業をめざして～	教材研究についてその方法を理解し、よりよい授業のための教材についての要件を把握する。プレゼンテーションを行い、板書の機能と実際について理解を深め実践できるようにする。	講義内容を整理し、ノートにまとめる。授業内容を振り返り課題レポートを作成する。。	60
5	教材教具の工夫・ワークシートの作成	わかる授業の実践の一つとして、教材教具の工夫を学び実践する。ワークシートの作成の仕方と活用について、理解を深め、プレゼンテーションすることで、実践力を高める。	講義内容を整理し、ノートにまとめる。授業内容を振り返り課題レポートを作成する。	60
6	授業のストーリー作りと学習指導案の作成	実習先の学校種ごとに想定して、指導内容の確認と指導上の留意点を踏まえ、単元設定とその計画を立案し、学習指導案の作成ができるようにする。	講義内容を整理し、ノートにまとめる。授業内容を振り返り課題レポートを作成する。	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
7	学習指導案の作成と教材研究	実習先の学校種ごとに想定して、指導内容の確認と指導上の留意点を踏まえ、単元設定とその計画を立案し、学習指導案の作成ができるようにする。	講義内容を整理し、ノートにまとめる。授業内容を振り返り課題レポートを作成する。	60
8	模擬授業と相互評価 「家族・家庭生活」領域	「家族・家庭生活」領域について、指導内容の確認と指導上の留意点を学ぶ。模擬授業を行い、相互評価によって領域における指導上の留意点を理解する。また、教員採用試験において重視される部分も抑える。	講義内容を整理し、ワークシートにまとめる。授業内容を振り返り課題レポートを作成する。過去問題についても実施する。	60
9	模擬授業と相互評価 「衣生活」領域	「衣生活」領域について、指導内容の確認と指導上の留意点を学ぶ。模擬授業を行い、相互評価によって領域における指導上の留意点を理解する。また、教員採用試験において重視される部分も抑える。	講義内容を整理し、ノートにまとめる。授業内容を振り返り課題レポートを作成する。過去問題についても実施する。	60
10	模擬授業と相互評価 「保育・子どもの成長と発達」領域	「保育・子どもの成長と発達」領域について、指導内容の確認と指導上の留意点を学ぶ。模擬授業を行い、相互評価によって領域における指導上の留意点を理解する。また、教員採用試験において重視される部分も抑える。	講義内容を整理し、ノートにまとめる。授業内容を振り返り課題レポートを作成する。過去問題についても実施する。	60
11	模擬授業と相互評価 「福祉・共生社会」領域	「福祉・共生社会」領域について、指導内容の確認と指導上の留意点を学ぶ。模擬授業を行い、相互評価によって領域における指導上の留意点を理解する。また、教員採用試験において重視される部分も抑える。	講義内容を整理し、ノートにまとめる。授業内容を振り返り課題レポートを作成する。過去問題についても実施する。	60
12	模擬授業と相互評価 「住生活」領域	「住生活」領域について、指導内容の確認と指導上の留意点を学ぶ。模擬授業を行い、相互評価によって領域における指導上の留意点を理解する。また、教員採用試験において重視される部分も抑える。	講義内容を整理し、ノートにまとめる。授業内容を振り返り課題レポートを作成する。教材研究についても計画し、実施する。	60
13	模擬授業と相互評価 「消費生活・環境」領域	「消費生活・環境」領域について、指導内容の確認と指導上の留意点を学ぶ。模擬授業を行い、相互評価によって領域における指導上の留意点を理解する。また、教員採用試験において重視される部分も抑える。	講義内容を整理し、ノートにまとめる。授業内容を振り返り課題レポートを作成するとともに学習指導案を作成する。教材研究についても計画し、実施する。	60
14	現代の生活課題を捉える	高等学校におけるホームプロジェクトと学校家庭クラブについて学び、現代の生活課題への考え方、教材研究の在り方を模索する。	講義内容を整理し、授業内容を振り返り課題レポートを作成する。	60
15	授業のまとめと振り返り、確認テスト	講座全体を振り返り、確認していくとともに、確認テストにより学びの定着を図る。	授業の振り返り、確認テストの反省と評価	60

科目名	教育原理Ⅰ	対象 単位数 必選	家政学部 食物栄養学科 2年 2単位 選択/家政学部 生活科学科社会福祉専攻 2年 2単位 必修/ 家政学部 生活科学科建築デザイン専攻 2年 2単位 必修
担当教員	関川 悦雄,山本 裕詞		
開講期	前期		
授業概要	<p>本授業は教職課程必修科目のうちのもっとも基本となる科目であり、受講生たちが教育の原理や理念、教育の歴史や思想に関する基本的理解を深めて教育の全体と課題を把握することを目標とする。受講生は、これまでほぼ無意識に教育を受けてきた立場から転じて、今後は人間の発達や知育や徳育の問題について教育思想や教育法制度、教育行政の理解をすることで、教育について客観的視点から学習ようになる。その場合、学校教育の在り方をとくに深く考察し、教職という職責の意義と責任について自覚を高めていく。こうして、教育に対する上記の視点の転換によって、教育の原理・本質を、歴史的考察と合わせて、国際比較の観点からも幅広く理解できるようになるであろう。☒</p> <p>さらに受講生は、教員として求められる実践的教養を身につけていくことが求められる。とりわけ、教育法規、教育課程、教育行政については具体的に正確に理解し、学校教育の骨格について理解を深めると同時に、教育や子どもを取り巻く時事問題へも精通するようになり、教職に対する前向きなスタンスを培うようにする。なお、この講義専用のノートを用意し、それに講義内容をその予習・復習の形で記述したり、あるいは授業用のレジュメを整理したり、レポート作成の作業をして貰いますが、それらに対するフィードバック（評価）は行います。☒</p> <p>当該授業科目の特性に応じて、本科目の担当教員二名は、中等教育における教員経験者として配置されている者である。この本科目の位置づけ・水準は、TP9101です。</p>		
達成目標	<p><履修カルテの評価項目：到達目標>☒</p> <p>①教育の目的とは何かについて考察をするが、その場合、教育基本法上の規定のみならず、歴史的練磨を経てきた教育の古典的思想や子ども観、発達観、学習観の理論に触れて、人間の成長についてアプローチができること。☒</p> <p>②自己体験からだけでなく、社会的・行政的、制度的角度から教育について理解することができるようになっていくこと。☒</p> <p>③学校・学級に関するさまざまな話題について、問題意識を高め、図書館にも出向き、自ら資料を通して分析することができるようになっていくこと。☒</p> <p>④マスコミで話題になる学校教育や子どもの問題について、表面的ではなく、原理的に考察できるようになっていくこと。☒</p> <p>これら四つの学修によって、ディプロマ・ポリシーに掲げられている「知識・理解」、「倫理観・社会的責任」、「総合的学習経験・創造的思考力」が培われる。また、単位認定の最低基準は、これら四つの項目の7割程度理解し、活用できることである。</p>		
受講資格	家政学部 生活科学科 社会福祉専攻 2年☒ 2単位 選択☒ 家政学部 生活科学科 建築デザイン専攻 2年 2単位 選択☒ 家政学部 食物栄養学科 2年 2単位 選択	成績評価 方法	①授業中に1～2回レポートを課し、次回の授業で発表・意見交換を行う。レポートの評価と発表・意見交換などで60点とする。☒ ②学期末のレポートまとめて40点。この2つの総合点が100点とする。
教科書	毎回の授業時にその日の講義内容を詳述した特製レジュメを配布する。それらを順序良くノートやファイルに綴じて毎回の授業に持参し、復習にも用いること。試験前にはそれら配布資料をしっかりと再読すること。☒ 尚、関川担当分の授業では、関川・北野『教育思想のルーツを求めて』（啓明出版、2009年）を使用する。		
参考書	①第8回からの授業は、教育制度の観点から教育原理の理解を深めることとなるため、最新の『教育小六法』を持参すること。その他一般参考書となる文献は、『教育法規』や『文部科学白書』、『子ども・若者白書』などの公的資料や分野別研究書、他に新聞記事など、多数ある。いずれにしても、授業中に提示する。		
学生への要望	講義形式を大切にしながら、同時に提出レポートを活用した発表や、教育的テーマをめぐる意見交換のアクティブな形式を導入することで、教育問題への主体的考察を習慣づける。したがって、受講生には、下調べ的な学習を求める。☒ 1 学問的要望☒ 教育の原理となっている教育思想や教育行政には、歴史的系譜というものがああり、まずはそれを理解することが必要である。各思想間には相違や見方の対立があるので、その対立構造や文脈を学ぶことで、主要な教育思想や特徴を把握していくならば、歴史的に知られている教育思想を生き生きと理解することができる。☒ 授業中に出てくる思想家、哲学者、教育行政官、教育実践家（学校をつくって教育にあたった人物）については、常に次回授業までに、可能な限り教育学辞典や世界人名事典、インターネット等で調べて確認し、その部分のコピーを取っておき、知識を確実にしよう。☒ 2 守るべきこと☒ ・毎回の授業には清らかな気持ちで臨み、新しい内容を発見し、自分を作り上げていってほしい。☒ ・参考書は授業中に教示するが、教科書は定めない。毎回配布される授業内容のレジュメや資料を必ずファイルにして綴じておき、それを大切に保存し、毎回の授業時にそのファイルを持参し、教科書として活用すること。☒ ・授業に対しては真摯な気持ちで臨み、授業開始時と終了時の礼儀（挨拶）を軽視しないこと。☒ ・レポートを出された場合は、既定の日（大抵は翌週の授業時）に必ず提出すること。定期試験前に慌てて過去のレポートを提出することは認められない。レポートは、A4の用紙に印字してくること。☒ ・授業開始時には、机の上を決して飲食物を出しておかないように重々心がけること。		
オフィスタイム	関川：水曜Ⅲ限（12:50～14:20）；木曜Ⅳ限（14:30～16:00） e.sekikawa@koryama-kgc.ac.jp☒ 山本：月曜Ⅰ限（8:50～10:20）；月曜Ⅱ限（10:30～12:00） y.yamamoto@koryama-kgc.ac.jp☒ 関川・山本研究室（教職課程推進室・図書館3階）。		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
---	----	------	------	------

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	導入：教職という仕事と教育について学ぶことの意味 関川	受講生の皆さんと一緒に次のテーマについて考える。☑ 1 家庭教育という人間形成の基盤☑ 「私の受けた家庭教育の意義」☑ 2 学校・社会から見た教育の意味☑ 家庭教育、学校教育、社会教育 ☑ 3 教育を考察する多面的・総合的領域☑ 教育実践の位置☑	予習・復習；自作ノートへの整理・記述	60
2	今日の学級とコメニウス 関川	1今日の学級制は何のために編制されるか☑ 。2学級とは何か、その規模はどうか。3ベル・ランカスタ法一の考案者はだれか、その方式の長所・短所は何か。 4学級制の考え方の考案者たるコメニウスはいかなる人物か。5コメニウスの著書や功績などは何か。	予習・復習；自作ノートへの整理・記述	60
3	J.J.ルソーの〈子ども〉の発見と市民教育 関川	1子どもの人権は何で保障されているか。2子どもの権利に関する条約は何か、またその成立の経緯はどうか。3子どもの人権保障の考え方はルソーにまで遡及できるか。4ルソーの著書・思想・教育論は何か。☑	予習・復習；自作ノートへの整理・記述	60
4	J.H.ベスタロッチの直観教授の確立と博愛主義教育の普及 関川	1誰にも共通する初等教育はいつ始まったか、その内容は何であったか。2ベスタロッチの教育事業はどこで始まり、どういう経緯を辿っていったか。3ベスタロッチの直観教授はどういうものでり、基礎陶冶の理念は何か。4日本に入ってきたベスタロッチ主義は何か。☑	予習・復習；自作ノートへの整理・記述	60
5	J.F.ヘルバルトの教授4段階とヘルバルト主義の教授5段階 関川	1現在の学校教育の中に見る教科教授の過程や教材の取扱いはどうなっているか。2ヘルバルトの科学的教育学はどうやって確立したのか。3ヘルバルトは教育の目的とその方法を何に求めたのか。3ヘルバルトは教授4段階をどう規定しているか。4ヘルバルト主義でいう教授5段階はどうなっており、日本にはどういう経緯を経て入ってきたのか。☑	予習・復習；自作ノートへの整理・記述	60
6	ホーレス・マンの公教育思想と公立学校制度 関川	1現在の日本の教育委員会制度はどうっているか。2アメリカ公立学校の父たるホーレス・マンはどのような人物であり、かれの教育思想は何か。3公教育の三大原則は何か。4公教育制度のもつ意味は何か。☑	予習・復習；自作ノートへの整理・記述	60
7	J.デューイの児童中心主義教育と経験主義教育 関川	1旧教育と新教育の違いは何か。2世界における新教育運動の流れはどうかであったか。3デューイの経験重視の教育は何か。4デューイ後の新教育の展開はどうなっているか。☑	予習・復習；自作ノートへの整理・記述	60
8	教育法規の体系 山本	1. 日本国憲法☑ 2. 教育基本法☑ 3. 学校教育法・同施行規則☑ 戦前・戦中の教育勅語体制との比較において、戦後の、いわゆる憲法・教育基本法体制の理解を深めます。また、その延長にみる平成18年教育基本法全部改正の意義を考察します。	予習・復習；レポート作成と整理	60
9	日本の教育制度と行政 山本	1. 学校教育制度☑ 2. 社会教育・生涯学習制度☑ 3. 教育行政システム☑ 日本の教育制度と行政を総覧した上で、教育行政の一般行政からの相対的独立の意義を考えます。	予習・復習；レポート作成と整理	60
10	学校制度の類型 山本	1. 学校制度の類型—単線型と複線型—☑ 2. 他国の教育制度☑ 3. 私教育と公教育の違い☑ 学習権保障の内実を考察の中心に据えながら、国家・社会的見地からの学校体系の設計について検討します。	予習・復習；レポート作成と整理	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
11	「学校」という空間 山本	1. 学校・教室の風景☑ 2. フリースクール☑ 3. 子供の放課後活動の変遷☑ 子どもの学びの形の多様化を、それが生じた背景を含めて理解することで、現状が抱える課題を可視化します。	予習・復習；レポート作成と整理	60
12	生涯学習社会 山本	1. 戦後の社会教育制度☑ 2. 生涯学習への移行☑ 3. 学校支援ボランティアなどのボランティアの現状☑ 生涯学習社会への移行を理解するために、コンドルセにみる理念的誕生と、その後の制度の推移を確認する。その上で、人間化へ向かう生涯学習と社会適応（資本適応）に向かう二つのベクトルがあることを理解し、我が国における「生涯学習社会」の実態を評価する。	予習・復習；レポート作成と整理	60
13	日本社会が抱える教育に関する病理（1） 山本	1. 「いじめ」研究による「いじめ」解釈 2. 群生秩序と普遍秩序 3. いじめ防止対策推進法 「いじめ」研究による「いじめ」の構造について理解を深めた上で、いじめ防止対策推進法の内容を確認する。また、近年生じた「いじめによる自死」事件を分析し、当該ケースの問題点を考察する。	予習・復習；レポート作成と整理	60
14	日本社会が抱える教育に関する病理（2） 山本	1. 「教育病理」の理論と制度的対応の限界 「教育病理」概念についての理解を深め、それに対する制度的対応を確認することを通して、公教育に内在する原理的課題について考察する。	予習・復習；レポート作成と整理	60
15	授業のまとめ 山本	授業のまとめと確認を行う。	予習・復習；レポート作成と整理	60

科目名	教育原理Ⅱ	対象 単位数 必修	家政学部 生活科学科社会福祉専攻 2年 2単位 必修/家政学部 生活科学科建築デザイン専攻 2年 2単位 必修
担当教員	山本 裕詞		
開講期	後期		
授業概要	<p>〔授業の目的・ねらい〕</p> <p>日本や諸外国の教育制度を知ることで、現在の私たちをとりまく教育について自ら考えることをねらいとし、教育法規の視点から教育制度の理解を深めることができるようになることを目標とする。また、新聞報道内容から教育問題を抽出し、順番で発表して各自の学びを共有するアクティブラーニングを取り入れる。なお、教育に関する法規については、小テスト(次回授業冒頭でフィードバック)で知識の定着を図り、教員採用試験に備える。授業は、講義形式で行うことを基本とするが、調査発表、小レポートの作成、授業内での活動・意見交換等のグループワークも設ける。最終授業では授業全体のフィードバックを行う。</p> <p>なお、実務家教員としての教員経験を活かし、教育現場の実際を意識した指導を行うことで、受講生の教職に就く者としての自覚を喚起する。</p> <p>実務経歴：中等教育の教員としては、神奈川県立新羽高等学校や学校法人白根開善学校に勤務。発達障がい児教育の教員としては、フリースクール飛翔中等部に勤務。</p> <p>位置づけ・水準 TP9104</p>		
達成目標	<p>①日本の教育制度について、その概要を理解し、説明することができる。☑</p> <p>②現代の教育制度の変化について、その概要を理解し、説明することができる。☑</p> <p>③教育経営的な要素について、その概要を理解し、説明することができる。☑</p> <p>単位認定の最低基準は、上記①～③の総合的評価が達成度7割以上であること。☑</p> <p>ディプロマ・ポリシーとの関係：知識・理解、倫理観・社会的責任、創造的思考力</p>		
受講資格	教職課程履修者で、2学年以上の者。	成績評価 方法	授業ごとに実施する小レポート・小テスト50%、最終授業時に実施する総まとめテスト50%で、総合評価6割以上の得点で合格。
教科書	『教育小六法』学陽書房 2022年（すでに持っているものがあれば、他の出版社のものでも可。ただし出版後3年以内のものに限る。）		
参考書	授業中に適宜紹介する。		
学生への要望	受け身の姿勢ではなく、常に、主体的、積極的な姿勢で授業に望んでほしい。		
オフィスタイム	<p>時間：時間割発表後に発表する。前年度末時点での仮設定として、月曜日1、2時限目。</p> <p>場所：教職課程推進室1（図書館3F）</p> <p>そのほかの時間帯の希望を含め、事前にy.yamamoto@koriyama-kgc.ac.jpにご連絡ください。</p>		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	オリエンテーション	1. 授業に関するガイダンス 2. 教育改革の影響力を考える。	レポート☑ 予習	120
2	教育制度の目的	1. 教育基本法第1条、第2条☑ 2. 教育制度を構成する三原理	レポート☑ 予習	120
3	生涯にわたる学び	1. 教育基本法第3条、第12条:生涯学習と社会教育	レポート☑ 予習	120
4	教育の機会均等	1. 教育基本法第4条、第5条；義務教育、高校授業料無償化、高等教育への補助制度	レポート☑ 予習	120
5	地方教育行政	1. 教育基本法第16条 2. 地方教育行政法 3. 教育委員会制度改革	小テスト☑ 予習	120
6	教職員	1. 教育基本法第9条 2. 教育職員免許法 3. 教育公務員特例法 4. 教員の給与と待遇	小テスト☑ 予習	120
7	就学前教育	1. 教育基本法第11条 2. こども・子育て支援 3. 少子化対策	レポート☑ 予習	120
8	後期中等教育・高等教育	1. 教育基本法第4条、第7条 2. 後期中等教育の整備と準義務化 3. 高等教育の質保証	レポート☑ 予習	120
9	教育政策の計画化	1. 教育基本法第17条 2. 教育振興基本計画 3. 教育と財政	小テスト☑ 予習	0
10	学校の経営	1. 教育基本法第6条、第9条、第13条 2. 学校の経営 3. 開かれた学校と地域社会 4. チーム学校	小テスト☑ 予習	120
11	学級の経営	1. 教育基本法第5条、第6条 2. 学級経営 3. 学級経営と特別活動 4. 問題行動と生徒指導	小テスト☑ 予習	120
12	教育課程の経営	1. 教育基本法第6条、第13条 2. 教育課程経営（カリキュラム・マネジメント） 3. PDCAサイクル	小テスト☑ 予習	120
13	教育とリスク	1. 教育とリスク☑ (特別の教科道徳について、価値観の学びについて全体討議を行う)	レポート☑ 復習	120
14	学校教育と人権	1. 児童生徒の法的地位論 2. 教育行政指導にみる公教育役割のゆらぎ	レポート☑	120

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
15	授業のまとめ	1. 授業の総まとめ 2. 総まとめテスト	まとめテストでの復習	120

科目名	教職論	対象 単位数 必選	家政学部 生活科学科社会福祉専攻 2年 2単位 必修/家政学部 生活科学科建築デザイン専攻 2年 2単位 必修/家政学部 食物栄養学科 2年 2単位 選択
担当教員	山本 裕詞		
開講期	前期		
授業概要	<p>〔授業の目的・ねらい〕</p> <p>最初に、人間の成長に必要となる「教育」について思考を深め、その上で、公的な教育機関である学校や公的資格である教員免許状の意義について考えていきます。その際、具体的な制度、仕組み、役割を確認しながら、本来の意義に立ち返って批判的に理解を深めます。後半では、近年社会問題化している教育問題について、それに対して期待されている教員の役割を確認し、それを「教育」や「学校」の本来の意義から批判的に検討します。なお、授業内容に応じて、グループディスカッション等、アクティブラーニングの手法を活用します。</p> <p>各授業後半に実施する小テストや小レポートは、添削し、次回授業冒頭で個人へフィードバックします。</p> <p>また、最終授業において、授業内容全体の総まとめを行います。</p> <p>なお、実務家教員としての教員経験を活かし、教育現場の実際を反映した指導を行います。</p> <p>実務経歴：中等教育の教員としては、神奈川県立新羽高等学校や学校法人白根開善学校に勤務。発達障がい児教育の教員としては、フリースクール飛翔中等部に勤務。</p> <p>位置づけ・水準 TP9102</p>		
達成目標	<p>1) 我が国における今日の学校教育や教職の社会的意義を理解する。</p> <p>2) 教育の動向を踏まえ、今日の教員に求められる役割や資質能力を理解する。</p> <p>3) 教員の職務内容の全体像や教員に課せられる服務上・身分上の義務を理解する。</p> <p>4) 学校の担う役割が拡大・多様化する中で、学校が内外の専門家等と連携・分担して対応する必要性について理解する。</p> <p>単位認定の最低基準は、上記1)~4)の総合的評価が達成度7割以上であること。</p> <p>ディプロマ・ポリシーとの関係：知識・理解、問題解決力、倫理観・社会的責任</p>		
受講資格	教職等に就くことを希望する者	成績評価 方法	まとめ試験50%、授業末や課題として実施する小テスト・小レポート等の提出物等50%の割合で総合評価。
教科書	最新版の教育小六法を必ず用意すること（推奨図書『教育小六法2022年版』学陽書房）など。なお、授業中にプリント等を配布することがあるので、ファイリングしてノートと連動して活用できるようにしておくこと。		
参考書	本図愛実・末富芳編『新・教育の制度と経営[新訂版]』学事出版 2017年 文部科学省『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説』2017年		
学生への要望	常に受け身の姿勢ではなく、主体的、積極的な姿勢で授業に望んでほしい。		
オフィスタイム	時間は、時間割決定後に発表します。（前年度末仮設定；月曜日1、2時限） 場所：教職課程推進室1（図書館3F） そのほかの時間帯の希望を含め、事前にy.yamamoto@koriyama-kgc.ac.jpにご連絡ください。		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	○オリエンテーション☑ ○二つの教育モデル☑	○授業計画および評価方法の案内☑ ○二つの教育モデルと教師の在り方を考える(グループ・ディスカッション)	まとめの小レポート	90
2	学校教育の機能1	○学校教育の目的☑ (1) 学校の種類☑ (2) 学校の設置者☑ (3) 教育行政と学校管理	復習☑ 小テスト	90
3	学校教育の機能2	○教職員とその職務☑ (1) 教職員の職務とその内容☑ (2) 事務職員の職務☑ (3) その他	復習☑ 小テスト	90
4	教員の資質と教員観	○教員に求められる資質能力☑ (1) 教職観と教員に求められる資質の関係☑ (2) 専門職としての教員☑ (三つの教職観についてのグループ・ディスカッション)	復習☑ 小レポート	90
5	学校の組織と運営1	○校長および教頭、主任の職務と役割☑ (1) 校長☑ (2) 副校長、教頭☑ (3) 主任等	復習☑ 小テスト	90
6	学校の組織と運営2	○学校の組織と運営☑ (1) 校務分掌による役割分担☑ (2) 新しい職による組織の変化	復習☑ 小レポート	90
7	教諭の教育活動1	○学級担任の職務と教科指導等☑ (1) 学級担任の役割と学級経営☑ (2) 教科指導☑ (3) 養護教諭、栄養教諭の職務	復習☑ 小テスト	90

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
8	教諭の教育活動2	○道徳の指導と「総合的な学習の時間」☑ (1) 道徳教育の実際☑ (2) 総合的な学習の時間	復習☑ 小レポート	90
9	教諭の教育活動3	○生徒理解にもとづく指導☑ (1) 生徒指導の意義☑ (2) 進路指導の意義☑ (教育相談と生徒指導の関係について、全体討議)☑	復習☑ 小レポート	90
10	教員の服務	○教員の一日と服務規程☑ (1) 勤務と休暇☑ (2) 服務規律	復習☑ 小テスト	90
11	教員の研修	○教員の研修とその体系☑ (1) 教員研修の種類☑ (2) 教員研修の内容☑ (3) 免許更新制度☑	復習☑ 小テスト	90
12	現代における学校教育の課題1	○人権教育と学習権の保障☑ (1) 同和教育☑ (2) 特別支援教育の理念と「障がい」理解☑ (3) 貧困と教育機会	復習☑ 小レポート	90
13	現代における学校教育の課題2	○いじめと不登校☑ (1) いじめの現状と自己の認識☑ (2) いじめ重大事態における公教育責任☑ (3) 専門職間の連携・協働☑ (いじめの4層構造理論をもとに、いじめをなくす方策を全体討議)	復習☑ 小レポート	90
14	現代における学校教育の課題3	○学習指導要領の概要と課題☑ (1) 学習指導要領の歴史の変遷☑ (2) 新学習指導要領の目指すもの	復習☑ 小レポート	90
15	授業のまとめ	○授業の総まとめ☑	復習☑ 総まとめテストのチェック	120

科目名	教育心理	対象 単位数 必選	家政学部 生活科学科社会福祉専攻 2年 2単位 必修/家政学部 生活科学科建築デザイン専攻 2年 2単位 必修/家政学部 食物栄養学科 2年 2単位 選択
担当教員	折笠 国康		
開講期	前期		
授業概要	教育心理学は、教育活動をより効果的に行うための心理学的な知見や技術を提供する学問である。本科目を通して、より効果的な教育実践が可能となる教育に関する心理学的な知識や方法を理解することを目標とする。最終授業で全体に対するフィードバックを行う。☑ 位置づけ・水準 TP9103		
達成目標	①認知や感情などの「心の発達」に関する基本概念をどの程度理解できたか。☑ ②「自己」に関する基本概念をどの程度理解できたか。☑ ③近年の教育現場で問題となっている事柄をどの程度理解できたか。☑ 単位認定の最低基準は、「内容の7割を理解していること」☑ ディプロマ・ポリシーとの関連：知識・理解、問題解決力、総合的な学習経験、創造的思考力		
受講資格	家政学部 人間生活学科 生活総合コース 2年 ☑ 家政学部 人間生活学科 福祉コース 2年 ☑ 家政学部 人間生活学科 建築デザインコース 2年 ☑ 家政学部 食物栄養学科 2年	成績評価 方法	授業内容の「70%程度」の理解が必要。理解度の評価は、授業の参加の様子やリアクションシート30%、試験70%で行う。
教科書	特に指定はない。		
参考書	講義の中で、適宜紹介する。		
学生への要望	講義への協力的な参加を要望する。		
オフィスタイト	金曜日 2限 8 3 5 ☑ 3限 8 3 5		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	オリエンテーション、教育心理学とは	この授業の目的と授業方針を理解する。心理学的な思考や考察が果たす役割を理解する。☑ 認知心理学の基礎を学び、認知に対する認識について理解する。	復習：授業内容をまとめ、必要に応じ参考文献にあたる	60
2	自己に関わる心理学（1）	アイデンティティ、自己評価、自尊感情の概念を理解し、自己を心理学的に理解する。	復習：授業内容をまとめ、必要に応じ参考文献にあたる	60
3	自己に関わる心理学（2）	アイデンティティ、自己評価、自尊感情の概念を理解し、自己を心理学的に理解する。	復習：授業内容をまとめ、必要に応じ参考文献にあたる	60
4	自己に関わる心理学（3）	本当の自尊感情、本当の自分について心理学的に理解する。	復習：授業内容をまとめ、必要に応じ参考文献にあたる	60
5	記憶と思考（1）	人間の記憶と思考のメカニズムについて理解する。	復習：授業内容をまとめ、必要に応じ参考文献にあたる	60
6	記憶と思考（2）	人間の記憶と思考のメカニズムについて理解する。	復習：授業内容をまとめ、必要に応じ参考文献にあたる	60
7	動機づけの心理学（1）	人間の動機づけについての知見を概観し、動機づけを心理学的に理解する。☑ 内発的動機づけに関する自己決定理論の概略を理解する。	復習：授業内容をまとめ、必要に応じ参考文献にあたる	60
8	動機づけの心理学（2）	人間の動機づけについての知見を概観し、動機づけを心理学的に理解する。☑ 内発的動機づけに関する自己決定理論の概略を理解する。	復習：授業内容をまとめ、必要に応じ参考文献にあたる	60
9	学級の心理学（1）	理想の学級の姿や学級の機能、全国的な学級の様子や課題について理解する。☑ 学級アセスメントについて理解する。	復習：授業内容をまとめ、必要に応じ参考文献にあたる	60
10	学級の心理学（2）	理想の学級の姿や学級の機能、全国的な学級の様子や課題について理解する。☑ 学級アセスメントについて理解する。	復習：授業内容をまとめ、必要に応じ参考文献にあたる	60
11	学級の心理学（3）	理想の学級の姿や学級の機能、全国的な学級の様子や課題について理解する。☑ 学級アセスメントについて理解する。☑ アクティブラーニングと学級集団の関係を理解する。☑	復習：授業内容をまとめ、必要に応じ参考文献にあたる	60
12	勇気と勇気づけの心理学	自主自立の姿の達成、人生を主体的に生きるために必要な勇気と勇気づけについて理解する。	復習：授業内容をまとめ、必要に応じ参考文献にあたる	60
13	アドラー心理学（1）	アドラー心理学を概観し、人間の行動に関しての目的について理解する。☑ また、人生を主体的に生きるための知見について理解する。	復習：授業内容をまとめ、必要に応じ参考文献にあたる	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
14	アドラー心理学（2）	アドラー心理学を概観し、人間の行動に関しての目的について理解する。☒ また、人生を主体的に生きるための知見について理解する。	復習：授業内容をまとめ、必要に応じ参考文献にあたる	60
15	本講義のまとめ	試験を実施し、本講義の内容を振り返り心理学的な知見のまとめを行う。	復習：授業内容をまとめ、必要に応じ参考文献にあたる	60

科目名	特別支援教育概論	対象 単位数 必選	家政学部 生活科学科生活総合コース 3年 1単位 選択/家政学部 生活科学科福祉コース 3年 1
担当教員	小林 徹		単位 選択/家政学部 生活科学科建築デザインコース 3年 1単位 選択/家政学部 食物栄養学科
開講期	後期		3年 1単位 選択
授業概要	中学校特別支援学級担任教諭としての指導経験や市町村教育支援委員としての幼稚園・保育所等との連携の経験に基づき、研究成果も踏まえて以下の内容を講義する。☑ 1. 特別支援教育を支える理念や歴史の変遷について理解する。☑ 2. 特別支援教育の場（機関）と制度の現状をとらえる。☑ 3. さまざまな障がいと障がい児理解の視点と方法、障がいではない特別な教育的ニーズの把握と支援について理解する。☑ 4. 障がい児等の個別の指導計画、支援計画の作成、評価について理解する。☑ 5. 特別支援教育の実践について理解を深める。☑ 課題、レポート、実技については、実施後に授業内でフィードバックを行う。☑ ☑ 位置づけ・水準 TP9106		
達成目標	1. 特別支援教育の理念や制度、その歴史や支援機関の現状をどの程度理解できたか。☑ 2. 障がい児の個別指導（支援）計画の作成、評価についてどの程度理解できたか。☑ 3. さまざまな障がいと障がい児理解の視点と方法、障がいではない特別な教育的ニーズの把握と支援についてどの程度理解できたか。☑ 単位認定の最低基準は、内容の7割が理解できていること。☑ ディプロマ・ポリシーとの関係：（生活科学科）知識・理解、問題解決力、総合的な学習経験、創造的思考力 （食物栄養学科）知識・技能、社会的応用、衛生管理・指導		
受講資格	教職課程を履修する学生を中心とする	成績評価 方法	平常点50点（小テスト、提出物、遅刻や授業態度による減点）☑ 期末試験50点
教科書	小林徹・栗山宣夫編著『ライフステージを見通した障害児保育と特別支援教育』みらい,2020		
参考書	七木田敦編著『保育そこが知りたい！気になる子Q&A』チャイルド本社,2008		
学生への要望	障がいや障がい児について関心を持ち、学習を深めてほしい。		
オフィスタイト	毎週火曜・木曜16:10~17:05、822研究室。それ以外は個別相談（cobalt@koriyama-kgc.ac.jpにメールして日時を設定）		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	特別支援教育の考え方、制度と仕組み	障がい児、特別な配慮を要する子ども、特別支援教育の基礎概念について学習する。☑	【事前】当日の内容をテキストで確認する。【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
2	障がいとの出会いと子育て、保護者支援	障がいのある子どもの子育ての考え方と療育の実践を映像を通して学習する。	【事前】当日の内容をテキストで確認する。【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
3	障がい児の理解と支援①発達障がい・知的障がい・情緒障がい	映像を通して発達障がい・知的障がい・情緒障がいに関する基礎的概念を整理し、その支援方法を考える。	【事前】当日の内容をテキストで確認する。【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
4	障がい児の理解と支援②肢体不自由・視覚障がい・聴覚障がい・言語障がい	映像を通して肢体不自由・視覚障がい・聴覚障がい・言語障がいに関する基礎的概念を整理し、その支援方法を考える。	【事前】当日の内容をテキストで確認する。【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
5	障がい児の理解と支援③病弱・重複障がい・障がいではない特別な教育的ニーズ	映像を通して病弱・重複障がい・障がいではない特別な教育的ニーズに関する基礎的概念を整理し、その支援方法を考える。	【事前】当日の内容をテキストで確認する。【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
6	他機関との連携	特別支援教育に関するさまざまな機関との連携、幼保小中高の接続について学習する。☑	【事前】当日の内容をテキストで確認する。☑【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
7	個別の教育支援計画と個別の指導計画の作成と活用	子どもとその特別な教育的ニーズをどのように見出し、理解するかを個別の指導計画の作成を通して学習する。☑	【事前】当日の内容をテキストで確認する。【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
8	特別支援教育のこれまでとこれから	特別支援教育の歴史の変遷を学習した後、全体の学習内容を振り返り、教師として特別支援教育にどう取り組むかを考察する。	【事前】当日の内容をテキストで確認する。【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30

科目名	教育課程論	対象 単位数 必選	家政学部 生活科学科生活総合コース 3年 2単位 選択/家政学部 生活科学科福祉コース 3年 2
担当教員	山本 裕詞		単位 選択/家政学部 生活科学科建築デザインコース 3年 2単位 選択/家政学部 食物栄養学科
開講期	前期		3年 2単位 選択
授業概要	<p>「教育のパラドックス」（第1回の授業で解説する）についての理解の上に、教育課程についての基本的な知識を獲得する。そして、教育課程の編成や開発などの基本的な問題の考察を行い、新学習指導要領が重視するカリキュラム・マネジメントの基礎力を培う。また、学習指導要領の変遷について、その社会背景との関連を理解しながら学ぶことで、今日の学校教育や教育課程を相対化する視点を獲得する。各授業の後半に実施する小テストや小レポートは、添削した上で、次回授業冒頭でフィードバックする。さらに、最終回の授業では、授業全体のフィードバックを行う。☑</p> <p>なお、実務家教員として、中等教育や特別支援教育における教員経験により、多様な生徒を対象にする教育課程の実際や、一斉授業における個別配慮の実際について、理解を深めることができる授業を展開し、内容に応じてアクティブラーニングを取り入れる。☑</p> <p>実務家教員歴：中等教育の教員としては、神奈川県立新羽高等学校に勤務。特別支援教育の教員としては、学習障がい者を主に対象とする全日制教育機関であるフリースクール飛翔中等部（現星槎中学校）に勤務。☑</p> <p>位置付け・水準 TP9105</p>		
達成目標	<p>①カリキュラムの編成原理について理解し、授業デザイン等実践上の工夫ができるようになる。☑</p> <p>②学習指導要領の変遷を社会背景との関係で理解し、その役割、機能、意義について説明できるようになる。☑</p> <p>③教科横断的な授業デザインや、学校段階をつなぐカリキュラムの編成について理解する。☑</p> <p>④カリキュラム・マネジメントについて理解し、カリキュラムの編成を評価と関連付けて説明することができる。☑</p> <p>単位認定方法の最低基準：①～④のそれぞれを総合して7割以上が達成されていること。☑</p> <p>ディプロマポリシーとの関連：知識理解、問題解決力、創造的思考力</p>		
受講資格	本学教職課程履修者。3学年以上。	成績評価 方法	小テスト、小レポート等の評価で50%。最終授業で実施する確認テストで50%。総合点で6割以上が合格。
教科書	<p>○文部科学省『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 総則編』平成29年7月、東山書房。☑</p> <p>○『教育小六法』（3年以内に公刊されたもの）。</p>		
参考書	○山田雅彦編著『教育課程論』学文社、2016年。		
学生への要望	実際に教壇に立つことを想定して、授業に臨んで欲しい。		
オフィスタイト	月曜日1，2時限☑ 場所：教職課程推進室1（山本研究室）		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	オリエンテーション	○学習の目的と授業計画。 ○「教育のパラドックス」を前提とする人間モデルとカリキュラムの意義。	復習：授業時配布プリント等。	90
2	経験の中のカリキュラム	○自己の経験を振り返ることを通して、カリキュラムの意義について考える。 ○カリキュラムの4層構造。	復習：カリキュラムの4層構造について、説明できるようにする。	90
3	カリキュラムの編成原理①	○児童中心主義と社会的効率主義	予習：図書館やSNSで事前に調査。 復習：学習内容が説明できるように。	90
4	カリキュラムの編成原理②	○行動主義と学問中心カリキュラム、編成の方法と分類。	予習：図書館やSNSで事前に調査。 復習：学習内容が説明できるように。	90
5	日本のカリキュラム①	○教育課程行政にみる教育課程編成の仕組み。	予習：教科書で該当箇所を予習。 復習：学習内容が説明できるように。	90
6	日本のカリキュラム②	○学習指導要領の特徴と改訂の背景。	予習：教科書で該当箇所を予習。 復習：学習内容が説明できるように。	90
7	日本のカリキュラム③	○学習指導要領の変遷。	予習：教科書で該当箇所を予習。 復習：学習内容が説明できるように。	90
8	日本のカリキュラム④	○各教科における教育内容の変遷。	予習：図書館やSNSで事前に調査。 復習：学習内容が説明できるように。	90
9	日本のカリキュラム⑤	○教育評価（指導と評価の計画）。	予習：図書館やSNSで事前に調査。 復習：学習内容が説明できるように。	90
10	日本のカリキュラム⑥	○総合的な学習の時間と教育課程改革。	予習：図書館やSNSで事前に調査。 復習：学習内容が説明できるように。	90
11	日本のカリキュラム⑦	○新学習指導要領の特徴（特別の教科道徳と「社会に開かれた教育課程」）。	予習：教科書で該当箇所を予習。 復習：学習内容が説明できるように。	90
12	カリキュラム・マネジメント	○教科横断的カリキュラム。 ○カリキュラムの評価。	予習：教科書で該当箇所を予習。 復習：学習内容が説明できるように。	90
13	ヒドゥン・カリキュラム①	○学校式教育の特徴と限界。	予習：図書館やSNSで事前に調査。 復習：学習内容が説明できるように。	90
14	ヒドゥン・カリキュラム②	○ジェンダーから考える文化と教育目的・計画。	予習：図書館やSNSで事前に調査。 復習：学習内容が説明できるように。	90
15	授業のまとめと目標達成度の確認	○全授業内容のフィードバック。 ○授業内確認テスト。	予習：ノートや配布プリントを整理し、疑問点をまとめておく。 復習：確認テスト問題を中心に復習。	90

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
---	----	------	------	------

科目名	道徳教育の理論と方法		対象 単位数 必選	家政学部 生活科学科生活総合コース 3年 2単位 選択/家政学部 生活科学科福祉コース 3年 2単位 選択/家政学部 生活科学科建築デザインコース 3年 2単位 選択/家政学部 食物栄養学科 3年 2単位 選択
担当教員	関川 悦雄			
開講期	後期			
授業概要	本授業では、道徳教育は道徳科という授業だけでなく、学校における全体の教育活動を通して行われることになっており、「道徳教育は苦手だから教えない」というわけに行きません。週1時間の「道徳の時間」は「特別の教科」として道徳科になり、教員を目指す皆さんは今まで以上に道徳教育について学ぶ必要があります。道徳教育を行うためには、まず自らが「道徳とは何か」を自問自答しながら、道徳教育の歴史や道徳性の発達に関する基礎知識を習得していることが求められます。さらに、道徳についての思索を深めつつ、学校全体にわたる道徳教育の目標・内容、道徳科の目標・内容・指導計画と実際の指導、そして道徳科の成立に伴う「新しい道徳授業」を模索して行きます。なお、この講義専用のノートを用意して、それに講義内容を予習・復習の形で記述して貰いますが、それに対するフィードバック（評価）は行います。位置づけ・水準はTP9204です。			
達成目標	1 道徳とは何か、自問自答できること。☑ 2 「道徳性」構成の諸様相、小学校と中学校にわたるその道徳性の発達について系統的に理解できること。☑ 3 道徳教育と道徳科のそれぞれの目標・内容・指導計画を理解し、これらに沿って実際の指導ができること。☑ 4 新しい道徳授業をつねに模索し続けることができること。これら四つの学修によって、ディプロマ・ポリシーに掲げる「問題解決力」や「倫理観・社会的責任」や「総合的学習・創造的思考力」が培われる。また、単位認定の最低基準は、これら四つの項目の7割程度理解し、活用できることである。			
受講資格	中学校・高校教諭の教員免許状の取得を目指す学生。	成績評価方法	毎回ワークシートを使用し、毎回教科書を使いつつこのワークシートの内容空欄を埋め、どこかで1回は模擬授業ができることで10点とし、自作ノートの作成で10点とする。評価はこれら二つと学期末のまとめ作成の80点を合わせて、100点とする。	
教科書	羽田積男・関川悦雄編著『道徳教育の理論と方法』（弘文堂）を使用する。			
参考書	特になし。			
学生への要望	講義への主体的、協力的な参加を要望する。この講義専用のノートを用意すること。			
オフィスタイト	水曜III限（12:50～14:20）同曜IV限（14:30～16:00）。関川研究室（教職課程推進室No2・図書館3階）。随時、時間のあるときに相談に応じるので、下記のメール・アドレスで事前のアポをとること。e.sekikawa@koriyama-kgc.ac.jp			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	講義ガイダンス	授業の進め方やワークシートの活用、自作ノートの作成、成績評価の付け方、班別討議の仕方などを説明する。	予習・復習；自作ノートへ整理・記述	40
2	道徳とは何か	道徳に関する事例を多角的に検討し、徳目主義の問題点と道徳教育の可能性を考える。	予習・復習；自作ノートへの整理・記述	40
3	わが国の道徳教育の歴史（1）	戦前の道徳教育の歴史—修身科における道徳教育の推移や教育勅語体制の確立、戦時期の国民学校における修身科教育のありようを考察する。	予習・復習；自作ノートへの整理・記述	40
4	わが国の道徳教育の歴史（2）	戦後の道徳教育の歴史—修身科の廃止、「道徳の時間」の特設、「特別の教科」としての道徳科の成立の流れを検討する。	予習・復習；自作ノートへの整理・記述	40
5	道徳性の発達（1）	道徳性を構成する諸様相にはどんなものがあるか。	予習・復習；自作ノートへの整理・記述	40
6	道徳性の発達（2）	小学校児童の道徳性の発達と中学校生徒の道徳性の発達について系統的にとらえる。	予習・復習；自作ノートへの整理・記述	40
7	学校における道徳教育（1）	道徳教育の目標と内容をとらえて、その適切な指導を考える。	予習・復習；自作ノートへの整理・記述	40
8	学校における道徳教育（2）	道徳教育の全体計画の事例を参照しながら、その作成する際の配慮すべき事項と全体計画の意義と内容について考える。	予習・復習；自作ノートへの整理・記述	40
9	道徳科の目標と内容（1）	道徳科の授業と、それ以外の教育活動における道徳教育との関係について考える。	予習・復習；自作ノートへの整理・記述	40
10	道徳科の目標と内容（2）	道徳科の目指すべき目標を検討する。	予習・復習；自作ノートへの整理・記述	40
11	道徳科の目標と内容（3）	道徳科の内容項目と、その取扱いの工夫について考える。	予習・復習；自作ノートへの整理・記述	40
12	道徳科の指導計画と実際の指導（1）	道徳科の指導計画の立案と、それに沿った道徳授業を展開してみる。	予習・復習；自作ノートへの整理・記述	40
13	道徳科の指導計画と実際の指導（2）	道徳科の指導方法の模索と評価の意義について考える。	予習・復習；自作ノートへの整理・記述	40
14	新しい道徳授業を求めて	「考え、議論する道徳の授業」を実践するには、どんな工夫が必要なのかを検討する。	予習・復習；自作ノートへの整理・記述	40
15	授業のまとめ	講義全体の振り返り、自作ノートに対する評価	予習・復習；自作ノートのチェック	40

科目名	特別活動・総合的な学習の時間の指導法	対象 単位数 必選	家政学部 生活科学科生活総合コース 3年 2単位 選択/家政学部 生活科学科福祉コース 3年 2単位 選択/家政学部 生活科学科建築デザインコース 3年 2単位 選択/家政学部 食物栄養学科 3年 2単位 選択
担当教員	関川 悦雄		
開講期	前期		
授業概要	本講義では、学校教育における教科外活動について、その教育課程上の位置づけや教育的意義を基本的に理解し、その上で新学習指導要領における特別活動、すなわち学級活動・ホームルーム活動・学校行事・生徒会活動などの各目標・内容・指導法と、総合的な学習の教育的意義や指導法について体験的に理解できるようにすることを本授業の目的とする。授業はワークシートを使用し、それを共同作業で解き、解答してもらおう形式で進める。なお、この講義専用のノートを用意して、それに講義内容を予習・復習の形で記述して貰いますが、それに対するフィードバック（評価）を行います。位置づけ・水準はTP9203です。		
達成目標	1 学校教育における教科外活動の歴史と教科外活動の教育課程化の進行を理解できること。☑ 2 学級活動・ホームルーム活動の教育的意義とその指導目標・内容・指導法を理解できること。☑ 3 生徒会活動・学校行事などの教育的意義とその指導目標・内容・指導法を理解できること。☑ 4 総合的な学習の教育的意義と指導法を理解できること。これら四つの学修によって、ディプロマ・ポリシーに掲げられている「問題解決力」や「倫理観・社会的責任」や「総合的な学習・創造的思考力」が培われる。また、単位認定の最低基準は、これら四つの項目の7割程度理解し、活用できることである。		
受講資格	中学校・高校の教員免許状の取得を目指す学生	成績評価 方法	毎回ワークシートを使用し、毎回テキストを使いつつこのワークシートの空欄を埋め、それを発表することで10点とし、自作ノートの作成で10点とする。評価はこの二つと、学期末のまとめ作成の80点を合わせて、100点とする。
教科書	関川悦雄・今泉朝雄共編著『特別活動・総合的な学習の理論と指導法』（弘文堂）を使用する。		
参考書	特になし		
学生への要望	講義への主体的、協力的な参加を要望する。☑ 上記の教科書は必ず用意し、それがないとワークシートの解答ができない。この講義専用のノートも用意すること。		
オフィスタイム	水曜Ⅲ限（12:50～14:20）；木曜Ⅳ限（14:30～16:00）。関川研究室（教職課程推進室No2・図書館3階）。		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	講義ガイダンス	講義の目的と授業方針を理解する。中高時代における課外活動の意義に触れ、自作ノートの作成の仕方も述べる。	予習・復習；自作ノートへの整理・記述	40
2	戦前の教科外活動の歴史	儀式・行事・学芸会・運動会・相談会の始まりを明らかにし、それぞれの教育的意義を考える。	予習・復習；自作ノートへの整理・記述	40
3	教科外活動の教育課程化と自由研究・特別教育活動の新設	教科外活動の教育課程化の意義と歴史的進行を考える。自由研究・特別教育活動の新設も明確にする。	予習・復習；自作ノートへの整理・記述	40
4	特別教育活動の改訂と特別活動の誕生	1958年学習指導要領改訂時の特別教育活動の内容を把握し、その後の特別活動の誕生とその内容構成の変遷も検討する。	予習・復習；自作ノートへの整理・記述	40
5	教育課程と特別活動との関係・特別活動の目標	現在の教育課程と特別活動との関係をとらえ、新学習指導要領における特別活動の目標に触れる。	予習・復習；自作ノートへの整理・記述☑	40
6	特別活動の内容と、その活動と各教科等との往還的關係	新学習指導要領における特別活動の内容を検討し、特別活動と各教科等との往還的關係をとらえる。	予習・復習；自作ノートへの整理・記述	40
7	学級・ホームルーム活動の新学習指導要領での位置づけ	学級・ホームルーム活動とは何か、その目標の規定と活動内容の構成はどうなっているかを考える。	予習・復習；自作ノートへの整理・記述	40
8	学級活動の指導目標と指導計画	学級活動の指導目標の設定と指導計画の作成を検討する。学級活動の指導サイクルを考察する。	予習・復習；自作ノートへの整理・記述	40
9	学級活動における3つの活動内容	学級活動における3つの活動内容を検討し、学級活動と他の教育活動との関係を明確にする。	予習・復習；自作ノートへの整理・記述	40
10	学校行事の理論と指導法	新学習指導要領における学校行事の位置づけとその目標と内容を明らかにし、学校行事の指導計画と指導法を考える。	予習・復習；自作ノートへの整理・記述	40
11	生徒会活動の理論と指導法	新学習指導要領における生徒会活動の位置づけとその目標を明らかにし、生徒会活動の指導計画と指導法を考える。	予習・復習；自作ノートへの整理・記述	40
12	総合的な学習の教育的意義	総合的な学習の目標・内容とその教育的意義を考える。	予習・復習；自作ノートへの整理・記述	40
13	総合的な学習の全体計画	総合的な学習の年間指導計画の立て方とさまざまな事例の紹介。	予習・復習；自作ノートへの整理・記述	40
14	総合的な学習の指導法	総合的な学習における主体的で対話的な深い学びと指導の仕方について検討する。	予習・復習；自作ノートへの整理・記述	40
15	授業のまとめ	講義全体の振り返り、自作ノートに対する評価	予習・復習；自作ノートへの整理・記述	40

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
---	----	------	------	------

科目名	教育方法論	対象 単位数 必選	家政学部 生活科学科生活総合コース 3年 2単位 選択/家政学部 生活科学科福祉コース 3年 2
担当教員	山上 裕子		単位 選択/家政学部 生活科学科建築デザインコース 3年 2単位 選択/家政学部 食物栄養学科
開講期	後期		3年 2単位 選択
授業概要	教育の方法は、学ぶ者、学ぶ内容によって動く生きたものである。何をどう教えていくのか、学校全体の教育課程全体像をつかみつつ、日々の授業を創意工夫していく必要がある。特に現在は、自ら主体的に考えるアクティブな学びが求められている。本講義では、教育方法の基礎理論をもとに、教育課程の意義や編成、授業の構成要素や評価、また、授業の基礎的な技術や指導案の作成及び模擬授業を行う。そして、教育機器の効果的な使用方法について学ぶ。提出物を添削・返却し、コメント等によるフィードバックを行う。☑ ☑ 位置づけ・水準 TP9205		
達成目標	本科目の教職ディプロマ・ポリシーとの対応項目は、次のとおりである。人間生活学科は「知識・理解」「問題解決力」「総合的な学習経験、創造的思考力」に、食物栄養学科は「知識・技能」「社会的応用」「衛生管理・指導」。 ☑ ①教育方法の基礎理論について、7割以上理解できたか。☑ ②授業の構成要素や多様な学習評価について、7割以上理解できたか。☑ ③授業の指導技術のポイントを7割以上理解し、指導案を作成できたか。☑ ④情報モラルの現状と課題について、7割以上理解できたか。☑ ⑤ICT教育の特徴と教材作成方法について、7割以上理解できたか。		
受講資格	教職課程履修者	成績評価 方法	授業参加度20%、レポート80%
教科書	・小学校学習指導要領（平成29年3月告示 文部科学省）☑ ・中学校学習指導要領（平成29年3月告示 文部科学省）☑ ・高等学校学習指導要領（平成30年3月告示 文部科学省）		
参考書	・授業中に紹介し、適宜資料を配布する。		
学生への要望	授業用ノートを準備し、疑問点などメモをとること。☑ 遅刻、欠席をしないよう注意すること。		
オフィスタイトム	山上裕子 木曜日：14：30～16：00 833研究室☑ 金曜日：12：50～14：20 833研究室☑ 山口 猛 月曜日 10：30～12：00 No.2生芸科研究室☑ 火曜日 16：10～17：05 No.2生芸科研究室		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	オリエンテーション（担当：山上裕子、山口猛）	授業内容について説明を受け、到達目標を確認する。これまで受けてきた授業を振り返り、現在求められている学びについて考える。☑ ☑	シラバスを確認し、自身が受けてきた授業についてメモにおこす。	60
2	教育の方法の基礎（担当：山上裕子）	子どもから学びが始まる、という教育観に立つ先人たちの提案した教育方法の考え方（ルソーの消極的な教育、ペスタロッチの直観教育等）とその実践について学ぶ。	授業で取り上げられる人物が生きた時代背景を確認する。	60
3	問題解決学習と授業の構成要素（担当：山上裕子）	自らが問い、課題を設定し、それを解決していくデューイの問題解決学習の理論と実践を学ぶ。また、授業の構成要素について学ぶ。	授業で取り上げられる人物が生きた時代背景を確認する。	60
4	多様な授業と評価（担当：山上裕子）	ドルトンプラン、イェナプランなど多様な授業の方法を学ぶ。多様な授業に応じた多様な評価を学ぶ。	授業で取り上げられる多様な授業について、現在取り入れている学校を調べる。	60
5	指導案の作成（担当：山上裕子）	学習指導計画の基本を学び、現行の「学習指導要領」の総則に沿って、模擬授業の指導計画を立てる。	模擬授業の内容を考える。	60
6	模擬授業（担当：山上裕子）	話し方、板書の仕方に留意し、作成した指導案を実施する。	模擬授業の準備をする。	60
7	模擬授業の検討（担当：山上裕子）	より深い学びとなる授業の点から、模擬授業を検討し、レポートにまとめる。	レポートを作成する。	60
8	ICT教育システムの設定と基本操作の理解（担当：山口猛）	情報通信技術を活用した教育「ICT教育」の理論及び方法を理解するため、実際に多くの小中高で利用されているICT教育システムを学修者自身のパソコンに設定し、基本操作を説明する。	ICT教育システムの基本操作を復習する。	60
9	ICT教育の歴史と現状（担当：山口猛）	文部科学省・総務省によるICT教育推進の歴史を確認する。また、ICT教育環境の具体的な活用事例から、長所と短所の理解を深める。	ICT教育推進の歴史を復習し、国の政策や課題を復習する。	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
10	情報モラルの現状と課題（担当：山口猛）	子どもたちの学びを脅かすさまざまな課題（情報機器の利用実態・事件/事故）と対策の理解が必要である。情報モラル教育の具体例として、タイムマネジメントとリスクマネジメントを学修する。	授業内容を元に、自分のタイムマネジメントとリスクマネジメントを作成する。	60
11	デジタル教材作成（担当：山口猛）	前回学修したタイムマネジメントとリスクマネジメントについて、デジタル教材を作成する手法を説明する。	デジタル教材を作成する。	60
12	ICT教育システムの応用操作（担当：山口猛）	デジタル教材を授業で利用するための、ICT教育システム応用操作を理解し、授業実践の計画を行う。	ICT教育システムの応用操作を復習する。	60
13	ICT教育システムを用いた模擬授業（担当：山口猛）	ICT教育システムを用いた模擬授業を行う。	模擬授業を行うためのICT環境準備を行う。	60
14	ICT教育システムを用いた模擬授業の反省（担当：山口猛）	ICT教育システムを用いた模擬授業の結果を反省し、改善点を検討する。	検討した改善点を元に、自身のICT教育システムを用いた授業計画をまとめる	60
15	情報通信技術を活用した教育「ICT教育」の課題共有ディスカッション（担当：山口猛）	第8回～14回までの学習内容を振り返るために、情報通信技術を活用した教育「ICT教育」の課題をまとめるディスカッションを行う。	自分なりの将来のICT教育の理想像の考えをまとめ、意見ができるようにする。	60

科目名	生徒指導論	対象 単位数 必選	家政学部 生活科学科生活総合コース 3年 2単位 選択/家政学部 生活科学科福祉コース 3年 2
担当教員	山本 裕詞		単位 選択/家政学部 生活科学科建築デザインコース 3年 2単位 選択/家政学部 食物栄養学科
開講期	後期		3年 2単位 選択
授業概要	<p>生徒指導の機能と意味を把握した上で、学校教育の業務構造（領域と校務分掌）との関係で生徒指導とは何かを理解し、さらに、いじめや不登校、非行等の問題行動の予防と対策に重点化する近年の動向について理解を深めていく。各授業の後半で行う小テストや小レポートについては、添削した後、次回授業冒頭にてフィードバックする。また、最終回の授業において、授業全体をフィードバックする。なお、授業内容に応じてアクティブラーニングの手法を取り入れる。また、実務家教員としての教員経験を活かし、教育現場の実際が想定できる指導を行う。</p> <p>実務経歴：中等教育の教員としては、神奈川県立新羽高等学校や学校法人白根開善学校に勤務。発達障がい児教育の教員としては、フリースクール飛翔中等部に勤務。</p> <p>位置づけ・水準 TP9206</p>		
達成目標	<p>【履修カルテの評価目標】【自己評価目標】は以下の4点</p> <p>①教師の仕事は教科を教えるだけでなく、子どもたちの人格を磨き、社会性を身につけさせ、独立した自立的な人間となるのを支援することであるので、そのための力量と人間性をもつ必要があることを自覚できたか。</p> <p>②生徒指導では、生徒個々の自己実現を支援すべく、集団としての生徒指導と個別の教育相談活動を連動させる必要があることが理解できたか。</p> <p>③生徒指導は、学校内の教職員の協力体制があつてこそ可能であり、学級・学校経営の在り方にも関わっていることを理解できたか。</p> <p>④生徒指導は、子どもたちの健全育成プランと連動するので、その推進には様々な関係者との連携が不可欠であることが理解できたか。</p> <p>単位認定の最低基準は、上記①～④の総合的評価が達成度7割以上であること。</p> <p>ディプロマ・ポリシーとの関係：問題解決力、倫理観・社会的責任、創造的思考力</p>		
受講資格	<p>教職課程履修者。</p> <p>3年以上。</p>	成績評価 方法	<p>各授業回ごとに実施する確認小テスト・レポートで50%、最終回に実施する総まとめテストで50%の割合で評価し、総合評価6割以上で合格とします。</p>
教科書	<p>・文部科学省『生徒指導提要』</p> <p>・毎回の授業において、その日のテーマに即したレジュメや資料を配布するので、それらをしっかりファイルにして第2の教科書として所持していること。</p>		
参考書	<p>授業中にその都度紹介する。☒</p> <p>尚、『青少年白書』、『子ども年鑑』などは重要文献である。近年の刊行のものがよい。</p>		
学生への要望	<p>授業に際しては、☒</p> <p>①レポートは必ず指定の日までに出す。☒</p> <p>②指名された場合には、積極的に前に出て発表等を行う。☒</p> <p>③配布された資料はファイリングして、教科書として使用できるようにすること。</p>		
オフィスタイム	<p>時間：時間割発表後に発表する。（前年度末における仮設定：月曜日1、2時限）</p> <p>場所：教職課程推進室1（図書館3F）</p> <p>その他、授業・会議のない日ならいつでも来室可能。原則、アポを以下のメールでとること。 y.yamamoto@koriyama-kgc.ac.jp</p>		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	導入 本授業の構成・計画について理解する☒ 「生徒指導」の既存イメージを共有する	<p>・本授業の目標と授業内容構成を理解する。</p> <p>・自分の学校体験の中にある「生徒指導」のイメージを確認し、発表を通して他者と共有する。</p> <p>・次回までの提出物として、レポート「思い出に残る先生」をまとめて提出する。</p>	<p>レポート☒</p> <p>復習</p>	120
2	生徒指導の意味と位置づけ	<p>・前回提出したレポートについて数名に発表してもらい、「良い先生とは」の意味を皆で考え、意見交換する。その中で、良い教師が持つ指導力に焦点をあて、それを生徒指導と関連づけてみる。</p> <p>・生徒指導の意味と定義を『生徒指導提要』（文科省）の説明から理解する。また、『学習指導要領』の記載内容からも生徒指導の仕事の意義を理解する。</p>	<p>レポート☒</p> <p>予習</p>	120
3	生徒指導と教師の姿	<p>生徒指導の観点から教師の在り方を考える。</p> <p>1 手本としての教師 教師の権力性を確認した後に、「教育のパラドックス」と生徒指導の観点から教師に必要な姿勢を洞察する。</p> <p>2 教師の自己開示 上記1の具体的内容として、教師の自己開示の必要性和方法を考える。</p>	<p>レポート☒</p> <p>予習</p>	120

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
4	生徒指導の組織体制	多角的な観点から、生徒指導の組織体制について、理解を深める。 1. 生徒指導の校内組織と生徒指導年間計画 2. チームとしての学校 3. 初期対応力とアセスメントの力	小テスト☒ 予習	120
5	自立を促す生徒指導の手法	子どもに自立を促す生徒指導の手法を理解する。 1. コーチングとティーチング 2. 構成的グループ・エンカウンター 3. 感情のコントロールとマネージメントなど	小テスト☒ 予習	120
6	少年非行問題	少年非行について、その問題性と対峙方法について 1. 少年非行の推移と現代的非行の特徴 2. 非行の具体的様相と非行モデル化 3. 非行からの立ち直り 4. 少年事件処理手続きの流れと教師の役割	レポート☒ 予習	120
7	いじめ問題と対策	いじめの現状理解と最新のいじめ理論から、具体的対策について理解を深める。 1. いじめの現状 2. いじめの理論 3. いじめ防止対策推進法と生徒指導体制	レポート☒ 予習	120
8	生徒指導と教育相談	生徒指導と教育相談の関係を整理し、指導の両輪としての性格を理解する。☒ 1. 相談体制☒ 2. カウンセリング・マインド☒ 3. 校則と教育相談☒	小テスト☒ 予習	120
9	『生徒指導提要』（文科省）を読み解き、活用する。	・文科省『生徒指導提要』を手掛かりにして児童生徒の問題行動の実態、それへの対応（予防、即時解決、事後指導、そして健全育成）のあり方を体系的に学ぶ。 ・個別指導と集団指導の手法を学ぶ ・進路指導、教育相談、家庭・学校・地域・関係機関との連携協力の在り方を学ぶ 他に、国立教育政策研究所生徒指導センターの『生徒指導資料』や、月刊誌『生徒指導』『教職課程』（生徒指導の特集号）を活用して校内整備や他機関との連携についての知識を深める。	小テスト☒ 予習	120
10	子どもの規範意識とその芽生え	子どもの自立性・主体性と規範意識の関係を探究的に理解する。（グループ討議による仮説と検証） 1. 規範意識を育むこと 2. 公共性や奉仕の精神が育まれる条件	レポート☒ 予習	120
11	「抱え込み」から開かれた「連携」へ	学校への期待の変化と危機管理責任の観点から、生徒指導の効果的な連携の在り方を学ぶ☒ 1. 児童生徒の法的地位と学校への期待☒ 2. 生徒指導と危機管理☒ 3. 多様な対象への対応を可能にする組織連携☒	小テスト☒ 予習	120
12	多様な子どもたちと権利を守る諸法	多様な子どもの状況を知り、それに対する子どもの人権の観点から、生徒指導の在り方を考える。☒ 1. 特別支援教育☒ 2. 貧困状態におかれた子ども☒ 3. 性的マイノリティー☒	小テスト☒ 予習	120
13	不登校問題と教育機会確保法	不登校の現状と対応の基本的考え方を理解した上で、教育機会確保法の持つ不登校へのインパクトを考える。☒ 1. 不登校の定義と現状☒ 2. 不登校の子どもへの支援☒ 3. 不登校のケース会議と教育支援シート☒ 4. 教育機会確保法の内容と、それが不登校に対して持つ意味☒	レポート☒ 予習	120

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
14	生徒指導とキャリア教育	生徒指導とキャリア教育の関係を理解する。☑ 1. キャリア教育の必要性☑ 2. 進路指導とキャリア教育☑ 3. 職場体験活動☑ 4. 高校中退と高等学校卒業程度認定試験☑	レポート☑ 予習	120
15	授業のまとめ	授業の総まとめを行う中で、授業全体の理解度を確認する。総まとめテスト。	復習	120

科目名	進路指導論	対象 単位数 必修	家政学部 生活科学科社会福祉専攻 2年 1単位 必修/家政学部 生活科学科建築デザイン専攻 2年 1単位 必修
担当教員	山本 裕詞		
開講期	後期		
授業概要	<p>本授業では、キャリア教育・進路指導の基礎的な事項について中央教育審議会答申などを通して学んでいく。また義務教育段階、中等教育段階における実際の進路指導・キャリア教育について、学習指導要領、調査研究教職者会議報告書、関連答申、都道府県教育委員会の資料等を考える材料として、アクティブラーニングを取り入れて学びを進める。なお、授業の後半で行う小テストや小レポートについては、添削した上で、次回授業冒頭でフィードバックする。また、最終回の授業で、授業全体のフィードバックを行う。</p> <p>なお、実務家教員としての教員経験を活かした指導を行い、教育現場の実践が想定できる学びを展開する。</p> <p>実務経歴：中等教育の教員としては、神奈川県立新羽高等学校や学校法人白根開善学校に勤務。発達障がい児教育の教員としては、フリースクール飛翔中等部に勤務。</p> <p>位置づけ・水準 TP9202</p>		
達成目標	<p>①キャリア教育・進路指導の基礎的な事項について理解できたか。☑</p> <p>②進路指導の歴史について理解し、中央教育審議会が示したキャリア教育の新たな方向性を把握することができたか。☑</p> <p>③各教育段階におけるキャリア教育推進のポイントとその実例を挙げることができたか。☑</p> <p>単位認定の最低基準は、上記①～③の総合的評価が達成度7割以上であること。☑</p> <p>ディプロマ・ポリシーとの関係：問題解決力、倫理観・社会的責任、創造的思考力</p>		
受講資格	教職課程履修者で、2年生以上。	成績評価 方法	各回の授業で実施する小テスト・レポート（50%）、最終授業で実施する総まとめテスト（50%）の割合で、総合6割以上で合格。
教科書	キャリア教育の推進に関する総合的調査研究協力者会議 報告書「児童生徒一人一人の勤労観、職業観を育てるために」（平成16年1月） （入手方法や必要となる箇所に関しては、授業中に情報提供する）		
参考書	中学校キャリア教育の手引き（文部科学省）、高等学校キャリア教育の手引き（文部科学省）、文部科学省『生徒指導提要』このほか授業中に適宜紹介する。		
学生への要望	受け身の姿勢ではなく、常に主体的、積極的な姿勢で授業に望んでほしい。		
オフィスタイム	<p>時間：時間割発表後に発表します。前年度末の仮設定として、月曜日1、2時限。</p> <p>場所：教職課程推進室1（図書館3F）</p> <p>そのほかの時間帯の希望を含め、事前にy.yamamoto@koriyama-kgc.ac.jpにご連絡ください。</p>		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	オリエンテーション	1. 授業に関するガイダンス☑ 2. 自身が受けてきたキャリア教育（進路指導）の振り返りと経験の共有☑ 3. キャリア教育（進路指導）の目的と目的達成の為に必要なこと☑	レポート☑ 予習	120
2	キャリア教育の概要	1. キャリア教育が求められている背景 ☑ 2. キャリア教育推進の経緯とキャリア教育の定義 ☑ 3. 教育法規からみるキャリア教育の位置付け ☑ 4. キャリア教育の実践をめぐる課題	レポート☑ 予習	120
3	キャリア教育と価値観の育成	1. 中教審答申「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について」☑ 2. キャリア発達とキャリア教育☑ 3. 価値観の傾向	小テスト☑ 予習	120
4	進路指導とキャリア教育（1）	1. 進路開拓に必要な育成すべき力 2. 進路指導とキャリア教育 3. 進学指導の指導計画と課題	レポート☑ 予習	120
5	進路指導とキャリア教育（2）	1. 校内組織と指導体制 ☑ 2. 実践を支える運営体制 ☑ 3. 「チームとしての学校」と全体計画	小テスト☑ 予習	120
6	就職指導と職場体験	1. 就職指導に関する法令等 ☑ 2. キャリア教育における職場体験の位置 ☑ 3. コーチングによるキャリア形成支援	レポート☑ 予習	120
7	若者の雇用をめぐる問題と働き方改革	1. ニート・フリーター、非正規雇用等 2. 格差社会 3. 働き方改革 （雇用をめぐる問題を念頭においた、望ましい進路指導の在り方について議論を深める）	レポート☑ 予習	120
8	授業の総まとめ	授業の総まとめと理解度の確認 総まとめテスト	復習	120

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
---	----	------	------	------

科目名	教育相談論	対象 単位数 必選	家政学部 生活科学科社会福祉専攻 2年 2単位 必修/家政学部 生活科学科建築デザイン専攻 2年 2単位 必修/家政学部 食物栄養学科 2年 2単位 選択
担当教員	宇治 和子		
開講期	後期		
授業概要	教育相談は、児童・生徒が自己理解を深めたり好ましい人間関係を築いたりしながら、集団の中で適応的に生活する力をはぐくみ、個性の伸長や人格の成長を支援する教育活動です。児童・生徒の発達状況に即しつつ、個々の心理的特質や教育的課題を適切にとらえ、支援するために必要な基礎的知識（カウンセリングの理論や技術）を、実践的に身に付けていきます。☑の授業は、子ども家庭福祉の現場で心理職として相談実務経験のある教員が担当し、各種課題は授業内にて随時返却 or 口頭フィードバックしていきます（TP9201）。		
達成目標	本授業は、以下3点を達成目標（8割以上で単位認定）とします。 ・学校における教育相談の意義と理論を理解する。 ・教育相談を進める際に必要な基礎的知識（カウンセリング・マインド等）を理解する。 ・教育相談の進め方やそのポイント、組織的な取組みや連携の必要性を、具体的にイメージできる。 なおこの科目は、本学DPの「問題解決力」「社会的責任」に関連しています。		
受講資格	人間生活科学科2年生☑ 「教職課程」受講者☑ 食物栄養学科2年生☑ 「教職課程」受講者	成績評価 方法	積極的な授業参加（10%）、授業内課題やレポート（3回：90%）により評価します。
教科書	教科書は使わず、レジュメ、資料を配布します。		
参考書	授業の中で、随時紹介します。		
学生への要望	資料等を工夫してイメージしやすい授業を心がけるので、積極的な授業参加を期待します。		
オフィスタイト	授業開始前・終了後：宇治研究室（836）		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	オリエンテーション	・授業内容、評価方法について説明する ・「心に残るあの先生」を振り返るワークショップの実施	資料をよく読みこんで、予習・復習すること	60
2	学校における教育相談の定義	・学校内で行われる教育相談について概要を説明する ・人の気持ちを理解するワーク（GHQ28）の実施	資料をよく読みこんで、予習・復習すること	60
3	学校における教育相談の歴史	・学校内で行われる教育相談の歴史的背景を説明する ・人の気持ちを理解するワーク（TEG）の実施	資料をよく読みこんで、予習・復習すること	60
4	学校における教育相談の種類	・教育相談を行うにあたっての、校内体制の整備、組織的な取組みの必要性を説明する ・人の気持ちを理解するワーク（HTPP）の実施	資料をよく読みこんで、予習・復習すること	60
5	組織的な取組みと連携の必要性	・地域の医療・福祉・心理等専門機関との連携を説明する ・人の気持ちを理解するワーク（スキグルゲーム）の実施	資料をよく読みこんで、予習・復習すること	60
6	教育相談を組み立てる1	・カウンセリングの基本的な理論について説明する ・カウンセリングマインドについて説明する	資料をよく読みこんで、予習・復習すること	60
7	教育相談を組み立てる2	・インテーク面接の基本について説明する	資料をよく読みこんで、予習・復習すること	60
8	教育相談を組み立てる3	・相談ロールプレイ、情報整理シートの記入 ・子どもの発するサインに気付くことについて説明する	資料をよく読みこんで、予習・復習すること	60
9	教育相談を組み立てる4	・ジェノグラム・エコマップの書き方について説明する	資料をよく読みこんで、予習・復習すること	60
10	教育相談を組み立てる5	・行動観察について説明する	資料をよく読みこんで、予習・復習すること	60
11	教育相談を組み立てる6	・心理検査の見方について説明する	資料をよく読みこんで、予習・復習すること	60
12	教育相談を組み立てる7	・生徒及び保護者に対する支援計画を含む面接相談記録の作成	資料をよく読みこんで、予習・復習すること	60
13	教育相談にあがってくる問題1 （いじめ・自殺など）	・具体的な事例をもとに説明する	このテーマに関連するニュースや新聞記事を探して読み、知見を広げる	60
14	教育相談にあがってくる問題2 （不登校など）	・具体的な事例をもとに説明する	このテーマに関連するニュースや新聞記事を探して読み、知見を広げる	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
15	教育相談にあがってくる問題3 (虐待・非行など)	・具体的な事例をもとに説明する	このテーマに関連するニュースや新聞記事を探して読み、知見を広げる	60

科目名	教育実習Ⅰ	対象 単位数 必選	家政学部 生活科学科生活総合コース 4年 1単位 選択/家政学部 生活科学科福祉コース 4年 1単位 選択/家政学部 生活科学科建築デザインコース 4年 1単位 選択
担当教員	山本 裕詞		
開講期	前期		
授業概要	<p>教育実習の意義、内容、方法、手続き、実習中の態度や配慮事項について学び、実習にスムーズに入れるようにするとともに、学生の身分のままで生徒に対しては指導者となることの立場や責任の重さを理解する。☑</p> <p>教育実習終了後は、実習体験のまとめを発表し、同時に他の実習生の発表を聞くことで、問題点の整理と解決を図りながら、教師としての望ましい姿を追求していく下地を涵養する。☑</p> <p>事前指導に関しては、ワークシートに既卒者の日誌から学んだ記載上のポイントまとめて提出し、添削してフィードバックする。事後指導においては、実習体験の発表内容を互いに評価し、評価表をフィードバックする。また、課題であるリフレクションシートを評価し、必要に応じてコメントを付けてフィードバックする。なお、当該授業は、中等教育や特別支援教育における教員経験を活用した指導を行う。☑</p> <p>実務経歴：中高の教員として神奈川県立新羽高等学校、学校法人白根開善学校等で勤務。☑</p> <p>☑ 位置づけ・水準 TP9301</p>		
達成目標	<p>①実習生としての責任の重さを自覚できたか。☑</p> <p>②実習前の事前準備をすることができたか。☑</p> <p>③実際の指導場面を想定した学習指導案が作成できたか。☑</p> <p>④実習体験をふり返り、他者に伝えることができたか。☑</p> <p>⑤自己と他者の反省から、目指すべき教師像が描けたか。☑</p> <p>単位認定の最低基準は、上記①～⑤の総合的評価が達成度7割以上であること。☑</p> <p>ディプロマ・ポリシーとの関係：問題解決力、倫理観・社会的責任、創造的思考力</p>		
受講資格	今年度「教育実習Ⅱ」への参加を認められた者	成績評価 方法	<p>①事前指導で義務付けた提出物の内容 (30点) ☑</p> <p>②事後指導時に提出させるリフレクションシート(20点)☑</p> <p>③実習反省の発表(30点)☑</p> <p>④最終レポート「教育実習を終えて・私の課題・」(1200字)(20点)</p>
教科書	「教育実習－マニュアルと記録－」(本学様式。授業の最初の時間に配布する)をもとにすすめ、必要に応じて参考資料を配布する。		
参考書	早稲田大学「教育実習マニュアル」第5版(東信堂)		
学生への要望	<p>1. 学生個人では責任の負担能力に限界があることを強く意識し、「報告」「連絡」「相談」を徹底する。☑</p> <p>2. 積極的・主体的に学ぶ姿勢と謙虚に指導を受容する姿勢との両立を図る心構えを形成して欲しい。☑</p> <p>3. 教育実習の受入校(生徒と教師)に対して感謝し、その気持ちの表現についても真剣に考えて欲しい。</p>		
オフィスタイム	<p>時間割決定後、学生のみなさんと相談して決定。☑</p> <p>そのほかの時間帯の希望を含め、事前にyamamoto@koryama-kgc.ac.jpにご連絡ください。☑</p> <p>☑ 場所は、教職課程推進室。</p>		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	オリエンテーション、事前指導1	<ul style="list-style-type: none"> ・教育実習をするための必要手続き☑ ・「教育実習Ⅰ」の授業計画、評価方法、各自の実習予定と指導時間の調整☑ ・教育実習の目的、準備、心構え、教員服務基準の遵守☑(担当；山本) 	実習日誌への実習校情報等の必要事項の記載	120
2	事前指導2	<ul style="list-style-type: none"> ・教育実習に臨むにあたっての不安と期待(レポート)☑ ・教育実習日誌の書き方☑ <p>(先輩方の日誌を参考に、日誌の書き方のポイントを各自で抽出し、その後発表を通して気付きを共有する)☑</p> <ul style="list-style-type: none"> ・評価と指導の一体化について☑ <p>(担当；山本)☑</p> <p>☑</p>	復習	120
3	事前指導3	<ul style="list-style-type: none"> ・模擬授業(家庭科)(教師役と生徒役のロールプレイングと気づきの共有)☑ ・教科指導案(細案)の個別指導☑ ・実践と批判を介した修正☑ <p>(担当；山本)</p>	学習指導案の修正と作成☑ 模擬授業の準備	180

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
4	事前指導4	<ul style="list-style-type: none"> ・模擬授業（家庭科）（教師役と生徒役のロールプレイングと気づきの共有）☑ ・教科指導案（細案）の個別指導☑ ・実践と批判を介した修正☑ (担当：山本)	学習指導案の修正と作成	180
5	事前指導5	<ul style="list-style-type: none"> ・模擬授業（特別活動：教師役と生徒役のロールプレイングを介した気づきの共有）☑ ・実践と批判を介した修正☑ ・学習指導案（細案）の個別指導☑ ・お礼状の書き方☑ ・実習日誌の受取について☑ (担当：山本)	学習指導案の修正と作成	180
6	事後指導1	<ul style="list-style-type: none"> ・教育実習体験の発表(実習者のプレゼンテーション) ☑ ・他者評価と自己反省☑ ・リフレクションシートの作成☑ (担当：山本)	発表準備	120
7	事後指導2	<ul style="list-style-type: none"> ・模擬授業(教師役と生徒役のロールプレイングを介した気づきの共有) ☑ ・残された課題の自覚☑ (担当：山本)	学習指導案の作成と修正☑ 模擬授業の準備	180
8	事後指導3	<ul style="list-style-type: none"> ・模擬授業(教師役と生徒役のロールプレイングを介した気づきの共有) ☑ ・他者評価と自己反省☑ ・まとめ☑ (担当：山本)	学習指導案の修正と作成☑ 模擬授業の準備	180

科目名	教育実習Ⅱ	対象 単位数 必選	家政学部 生活科学科生活総合コース 4年 4単位 選択/家政学部 生活科学科福祉コース 4年 4単位 選択/家政学部 生活科学科建築デザインコース 4年 4単位 選択
担当教員	山本 裕詞		
開講期	通年		
授業概要	<p>教育実習の目的である以下の4点を踏まえ、日頃の学びの成果および教育実習事前指導で得たことを基に、「教師としての資質」を高めるために現場実習を行う。その際、実習巡回等の機会を通して実習体験をフィードバックし、主体的で個別的なニーズに応じた学びが展開できるようにする。したがって授業の全てが広義のアクティブラーニングとなる。巡回指導等においては、担当教員の実務経験を活かした指導が行われる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 大学で学んだことを、教える立場に立って実践的に検証すること。 2. 教師のあり方や職務・使命などを、体験的に理解すること。 3. 学校の実情や生徒の実態を把握し、それらへの具体的対応や心構えを知ること。 4. 自己の教職適性や教職志望を確認すること。 <p>実務経験：中高の教員として公立高等学校（神奈川県）、私立の中高一貫校（群馬県）、フリースクール中学部（神奈川県）等で勤務。 位置づけ・水準 TP9302</p>		
達成目標	<ol style="list-style-type: none"> ①教材研究を入念に行い、計画した指導案を実践できたか。 ②実習生としての身分をわきまえながら体験することで、教員としての服務基準の遵守を理解できたか。 ③教育実習日誌への簡潔で的確な記述ができたか。 ④学校の実情や生徒の実態、課題を把握することができ、その対処について指導教諭から具体的な対応策を学ぶことができたか。 ⑤実習校の先生方や生徒とのふれあいをとおして教職への志望が一層高まったか。 <p>単位認定の最低基準は、上記①～⑤の総合的評価が達成度7割以上であること。 ディプロマポリシーとの関係 問題解決力、倫理観・社会的責任、創造的思考力</p>		
受講資格	今年度「教育実習Ⅱ」への参加を認められた者	成績評価 方法	実習校からの評価(40%)と実習記録(30%)および実習への取り組み(30%)の割合で評価し、6割以上の総合点で合格。
教科書	教育実習 -マニュアルと記録-		
参考書	事前指導の際に連絡する。		
学生への要望	教育実習生としての心構えを理解し、実践できるように事前準備をしっかりと行うこと。 受け身の姿勢ではなく、主体的、積極的な姿勢で臨むこと。		
オフィスタイム	時間：時間割決定後に発表（年度末の仮設定：月曜日1、2限目） 場所：教職課程推進室1（山本研究室） そのほかの時間帯の希望を含め、事前にy.yamamoto@koriyama-kgc.ac.jpにご連絡ください。		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	現場実習(1日目)	実習校によるオリエンテーション 1. 教育実習の目的 2. 教育実習の心構え・諸注意 3. 現場実習（観察実習、教壇実習）	実習内容に関する日誌への記載 教壇実習の準備	120
2	現場実習(2日目)	実習校での現場実習（観察実習、教壇実習）	実習内容に関する日誌への記載 教壇実習の準備	120
3	現場実習(3日目)	実習校での現場実習（観察実習、教壇実習）	実習内容に関する日誌への記載☑ 教壇実習の準備	180
4	現場実習(4日目)	実習校での現場実習（観察実習、教壇実習）	実習内容に関する日誌への記載☑ 教壇実習の準備	180
5	現場実習(5日目)	実習校での現場実習（観察実習、教壇実習）	実習内容に関する日誌への記載☑ 教壇実習の準備	180
6	現場実習(6日目)	実習校での現場実習（観察実習、教壇実習）	実習内容に関する日誌への記載 教壇実習の準備	180
7	現場実習(7日目)	実習校での現場実習（観察実習、教壇実習）	実習内容に関する日誌への記載 教壇実習の準備	180
8	現場実習(8日目)	実習校での現場実習（観察実習、教壇実習）	実習内容に関する日誌への記載 教壇実習の準備	180
9	現場実習(9日目)	実習校での現場実習（観察実習、教壇実習）	実習内容に関する日誌への記載☑ 教壇実習の準備	180
10	現場実習(10日目)	実習校での現場実習（観察実習、教壇実習）	実習内容に関する日誌への記載☑ 教壇実習の準備	180
11	現場実習(11日目)	実習校での現場実習（観察実習、教壇実習）	実習内容に関する日誌への記載☑ 教壇実習の準備	180
12	現場実習(12日目)	実習校での現場実習（観察実習、教壇実習）	実習内容に関する日誌への記載☑ 教壇実習の準備	180
13	現場実習(13日目)	実習校での現場実習（観察実習、教壇実習）	実習内容に関する日誌への記載☑ 教壇実習の準備	180
14	現場実習(14日目)	実習校での現場実習、研究授業での授業実践。	実習内容に関する日誌への記載☑ 教壇実習の準備	180

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
15	教育実習成果のまとめ (15日目)	1. 教育実習での成果☒ 2. 教育実習で発見した課題と解決	実習の総まとめ（実習日誌の仕上げ）☒	180

科目名	教職実践演習（中・高）	対象 単位数 必選	家政学部 生活科学科生活総合コース 4年 2単位 選択/家政学部 生活科学科福祉コース 4年 2単位 選択/家政学部 生活科学科建築デザインコース 4年 2単位 選択
担当教員	山本 裕詞		
開講期	後期		
授業概要	<p>本演習では、以下の4項目を踏まえて授業を行う。教員として必要な資質や知識および技能の再確認を行うとともに、自己分析を通して不足している部分の補完を目指し、教員として備えるべき資質のさらなる向上を目指します。教員の授業担当はオムニバスになり、授業単元ごとのレポート等を通して、フィードバックが行われます。最終回の授業において、履修カルテの仕上げによって、教職課程全体をフィードバックします。</p> <p>なお、オムニバスで担当する教員の中には、中等教育や特別支援教育における教員経験を活用した指導を行う者が複数おり、教育現場の実際を意識した学びが重視されます。授業内容の特質に応じてアクティブラーニングが取り入れられます。</p> <p>実務経歴：中等教育や特別支援教育等での教員経歴がある者は、以下の通り。 小林、磯部、関川、山本、亀田、折笠、黒沼、ホーナー。</p> <p>位置づけ・水準 TP9303</p>		
達成目標	<p>1. 使命感や責任感、教育的愛情等に関する事項☑ ①教育現場の現状を再確認し、教師の使命と役割を理解できたか。☑</p> <p>2. 社会性や対人関係能力に関する事項☑ ②生徒および教職員との人間関係を円滑に進めるためのコミュニケーション能力を培うことができたか。☑</p> <p>3. 児童生徒理解や学級経営等に関する事項☑ ③現在の学校における生徒指導上の課題を理解し、「生徒1人ひとりへ個別に対応できる能力」と「学級集団を育成する能力」を培う。とともに「特別支援教育の現状」や「発達障害児」への指導・援助について理解できたか。☑</p> <p>4. 教科の指導力に関する事項☑ ④中学校の家庭科、高等学校の家庭科の教科指導を十分に遂行できる知識と技術を再確認するとともに、各自が幅広い視野で学びを深め、専門性を高めることができたか。☑</p> <p>単位認定の最低基準は、上記①～④の総合的評価が達成度7割以上であること。☑</p> <p>ディプロマ・ポリシーとの関係：問題解決力、倫理観・社会的責任、創造的思考力</p>		
受講資格	教育実習Ⅰ・Ⅱを履修していること	成績評価 方法	担当教員それぞれが、各回のレポート等を10点満点で評価する。全員の評価を平均し、100点満点に換算して評価する。
教科書	教科書は使用しない。必要な資料を授業の際に、配布するので、各自ファイル等に綴じて管理すること。		
参考書	授業の際に、各担当教員より提示。		
学生への要望	受け身の姿勢ではなく、主体的、積極的な姿勢で授業に臨んで欲しい。		
オフィスタイム	時間については、時間割発表後に発表します。（前年度末時点での仮設定 山本 月曜1、2時限） 場所は、それぞれの研究室。なお、科目責任者である山本は、教職課程推進室1（図書館3F）		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	オリエンテーション☑ （「教職実践演習（栄養教諭）」と合同）☑ ☑ 担当：山本、関川、菊池、亀田	①教職課程における「教職実践演習」位置付けについて理解する。☑ ②本科目の目的、授業計画、評価方法について説明して、授業に対する心構えを作る。☑ ③教職採用試験受験状況、その他教職アンケート調査☑ ④履修カルテに関する説明	レポート☑ 復習	90
2	「特別支援教育」の現状と課題☑ 〔「教職実践演習（栄養教諭）」と合同〕☑ ☑ 担当：小林	いわゆる「気になる子」と特別支援教育の現状と課題について、理解を深める。	予習☑ レポート	120
3	模擬授業(特別活動)〔「教職実践演習（栄養教諭）」と合同〕☑ ☑ 担当：関川	教育実習を踏まえた特別活動模擬授業の実施。	模擬授業準備	240
4	学校教育における芸術科教育〔「教職実践演習（栄養教諭）」と合同〕	学校教育における芸術科教育の意義に触れるとともに、芸術科教員から家庭科教諭や栄養教諭に望むことを理解する。	レポート	120
5	円滑なコミュニケーション・連携の方法について〔「教職実践演習（栄養教諭）」と合同〕☑ ☑ 担当：折笠	円滑なコミュニケーションの方法について学ぶ（対児童生徒、対保護者、対同僚）	レポート☑ 復習	120

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
6	円滑なコミュニケーション・連携の方法について☑ 〔「教職実践演習（栄養教諭）」と合同〕☑ ☑ 担当：折笠	円滑なコミュニケーションの方法について学ぶ（対児童生徒、対保護者、対同僚）	レポート☑ 復習	120
7	教師の教養としての英語表現力〔「教職実践演習（栄養教諭）」と合同〕☑ ☑ 担当：ホーナー	英語での自己紹介力を高める。	レポート☑ 復習	120
8	「チーム学校」の現状〔「教職実践演習（栄養教諭）」と合同〕 担当：ゲストスピーカー 郡山市教育委員会 担当：山本	教育委員会より、教育現場の経験豊かな教育行政官を招き、「チーム学校」に関する基本的な考え方と、食育を含む学校教育の現状について解説して頂く。	レポート	120
9	自己の専門性を他の専門職者へ伝える①☑ 作戦会議と教材作成☑ ☑ 担当：山本	栄養教諭に向けて、中高普通免許状家庭科一種の専門性を伝える工夫を考え、プレゼンテーションの準備を行う。	調査研究☑ プレゼンテーション準備	120
10	自己の専門性を他の専門職者へ伝える②☑ 作戦会議と教材作成☑ ☑ 担当：山本	栄養教諭に向けて、中高普通免許状家庭科一種の専門性を伝える工夫を考え、プレゼンテーションの準備を行う。	調査研究☑ プレゼンテーション準備	120
11	自己の専門性を他の専門職者へ伝える③☑ 作戦会議と教材作成☑ ☑ 担当：山本	栄養教諭に向けて、中高普通免許状家庭科一種の専門性を伝える工夫を考え、プレゼンテーションの準備を行う。	調査研究☑ プレゼンテーション準備	120
12	自己の専門性を他の専門職者へ伝える④☑ 〔「教職実践演習（栄養教諭）」と合同〕☑ ☑ 担当：菊池、山本、関川、亀田	栄養教諭に向けて、中高普通免許状家庭科一種の専門性を伝える工夫を考え、プレゼンテーションを行う。	レポート	120
13	食物アレルギーと望まれる食育の在り方	栄養教諭としての実践経験を踏まえた、食物アレルギー対策と望ましい食育のあり方について、知見を深める。	レポート	120
14	教育問題の理解と対応〔「教職実践演習（栄養教諭）」と合同〕	学校において生起する諸々の教育問題について、教師としての自己の対応について考察を深める。	レポート	120
15	まとめ☑ 〔「教職実践演習（栄養教諭）」と合同〕☑ ☑ 担当：山本、菊池、関川、亀田	授業の総括を行う。☑ 当初の目標と現在の課題を確認し、自己評価と反省を行い、レポートを提出し履修カルテを完成させる。	レポート	120

科目名	教職キャリアデザインⅠ	対象 単位数 必選	家政学部 生活科学科生活総合コース 3年 2単位 選択/家政学部 生活科学科福祉コース 3年 2単位 選択/家政学部 生活科学科建築デザインコース 3年 2単位 選択/家政学部 食物栄養学科 3年 2単位 選択	
担当教員	山本 裕詞			
開講期	後期			
授業概要	<p>教職キャリアデザインⅠは、建学の精神に則り、教員としてのキャリア形成を目指す学生を対象にした科目である。本科目は、教職に就くために何をどう努力したらよいか、その具体的な方途を得ることを目標としている。講義の内容は、教職教養関連の科目、専門科目、小論文、集団討論等から成り、内容の性質に応じてアクティブラーニングの手法がとられる。また、11月に模擬試験（教職教養）の受験体験を組み入れ、教員としてのキャリア形成の一助となるようにはかっている。本科目の受講を手がかりにして教職へのキャリアを築くことができるよう、積極的に勉学に励むことを期待する。授業各回ごとの課題や答練の添削等を通してフィードバックするので、復習に活用すること。</p> <p>なお、担当教員の内、関川、山本、瀬谷、亀田に関しては、中等教育における教員経験がある。学校教育の実験を経験した立場から、授業の各内容を担当することで、学校教育の実験を反映する採用試験対策、ひいては教職キャリア形成を効果的に支援する。</p> <p>位置付け・水準 TP9001</p>			
達成目標	<p>①教員としてのキャリア形成を意識した取り組みができたか。☑</p> <p>②教員採用選考に向けて自己の実力を認識し、向上させることができたか。☑</p> <p>単位認定の最低基準は、上記①～②の総合的評価が達成度7割以上であること。☑</p> <p>ディプロマ・ポリシーとの関係：知識・理解・問題解決力、倫理観・社会的責任</p>			
受講資格	原則として、本学教職課程履修者の内、大学3年生、卒業生を対象とする。	成績評価 方法	取り組み姿勢30%、提出物70%の割合で各回の授業担当者の総合評価による「認」評価。	
教科書	特に指定はない。毎回、各担当教員が資料等を配布する。			
参考書	『教育小六法』（最新版）☑ 志望校種の『学習指導要領』			
学生への要望	採用試験は、各都道府県によってさまざまであるため、各自の自主的な勉学が必要である。本科目の受講が勉学の指針となるように、授業への積極的な参加を望む。☑ 常に受け身の姿勢ではなく、主体的、積極的な姿勢で授業に望んでほしい。			
オフィスタイト	時間については、時間割発表後に発表します。 各教員の研究室 なお、前年度末の仮設定となるが、山本については、月曜1、2時限。場所は、教職課程推進室1（図書館3F）です。時間割発表後の正式決定前までは、全て山本に問い合わせること。			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	オリエンテーション	授業内容、自学の仕方、教員採用試験に関する説明を聞く。志望都道府県調査表を記入する。	復習	90
2	教育法規	過去問を解くことを通して、出題傾向を知る。	復習	90
3	特別支援教育	過去問を解くことを通して、出題の傾向を知る。	復習	90
4	教科別指導①☑ ☑ 担当：（家庭）瀬谷（栄養）菊池、亀田	志望する自治体の出題傾向を研究する。	復習	90
5	教科別指導②☑ ☑ 担当：（家庭）瀬谷（栄養）菊池、亀田	各専門教科について、基礎的な知識を身につける。	復習	90
6	教科別指導③☑ ☑ 担当：（家庭）瀬谷（栄養）菊池、亀田	各専門教科について、基礎的な知識の理解を深める。	復習	90
7	教育心理	過去問を解くことを通して、出題傾向を知る。	復習	90
8	教育心理☑ ☑ 担当：山本	過去問を解くことを通して、出題傾向を知る。	復習	90
9	教育時事☑ ☑ 担当：山本	過去問を解くことを通して、出題傾向を知る。	復習	90
10	模擬試験☑ ☑ 担当：山本	模擬試験の受験体験をする。	復習	90
11	小論文指導①☑ ☑ 担当：関川	小論文の出題例、書き方の概要解説	復習	90

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
12	小論文指導②☑ ☑ 担当：関川	論理的に文章をまとめ上げる基本を知り、添削を受ける。	復習	90
13	個人面接☑ ☑ 担当：山本	教職をなぜ目指すのか。面談の体験を通して教職への意識を高める。アクティブラーニング。	復習	90
14	集団討論☑ ☑ 担当：山本	グループで結論を導き出す体験を通して、討議とは何かを知る。アクティブラーニング。	復習	90
15	採用試験の申込について☑ ☑ 担当：山本	授業のまとめと確認テスト☑ 採用試験の手続き、提出書類について知る。	復習	90